

土地履歴調査 成果説明会
(岡山地区・広島地区・高松地区・松山地区・高知地区)

調査成果の利活用事例集

主な内容

1. 土地の成り立ちから地域の安全性を知る（自然地形及び人工地形分類図）
2. 土地利用の変遷を知る（50年前・100年前の土地利用分類図）
3. 災害の発生状況を知る（災害履歴図）
4. 土地履歴調査の成果と他の情報を組み合わせて活用する

平成 27 年 10 月 30 日

国土交通省 国土政策局 国土情報課

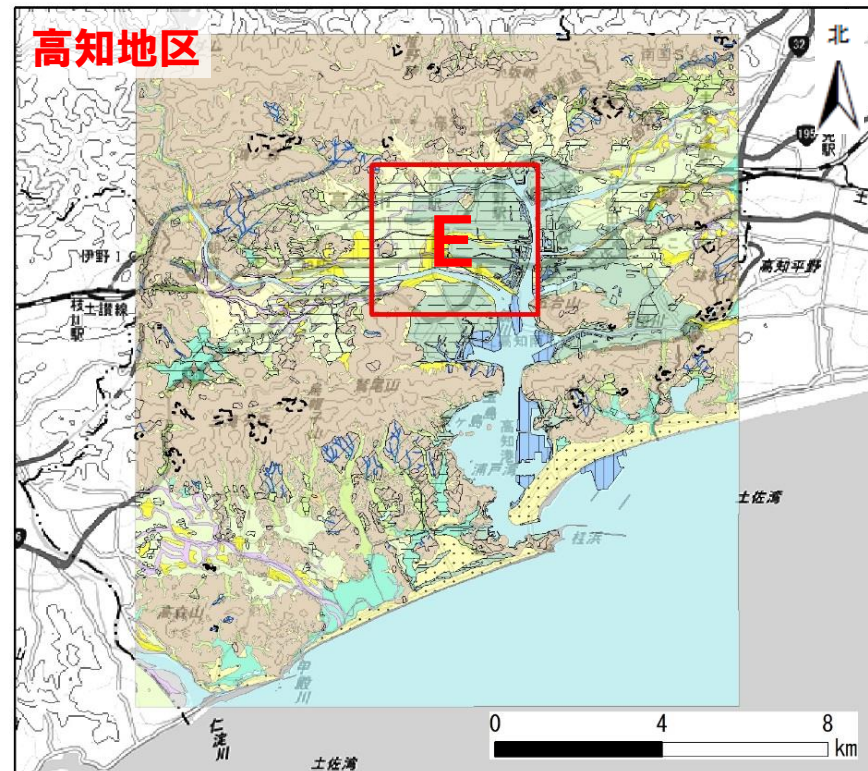
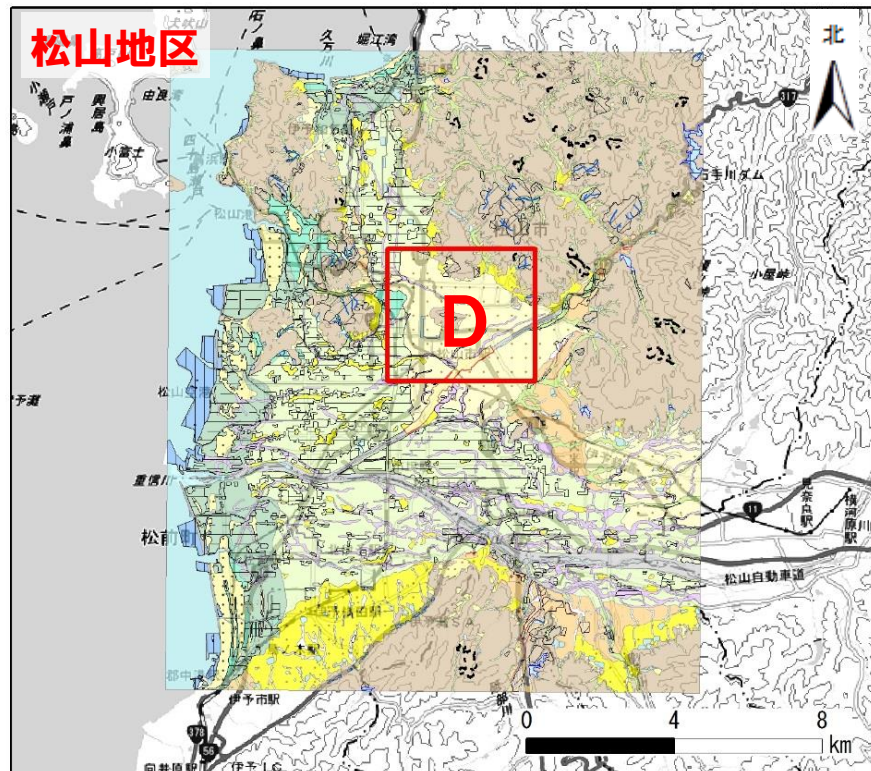
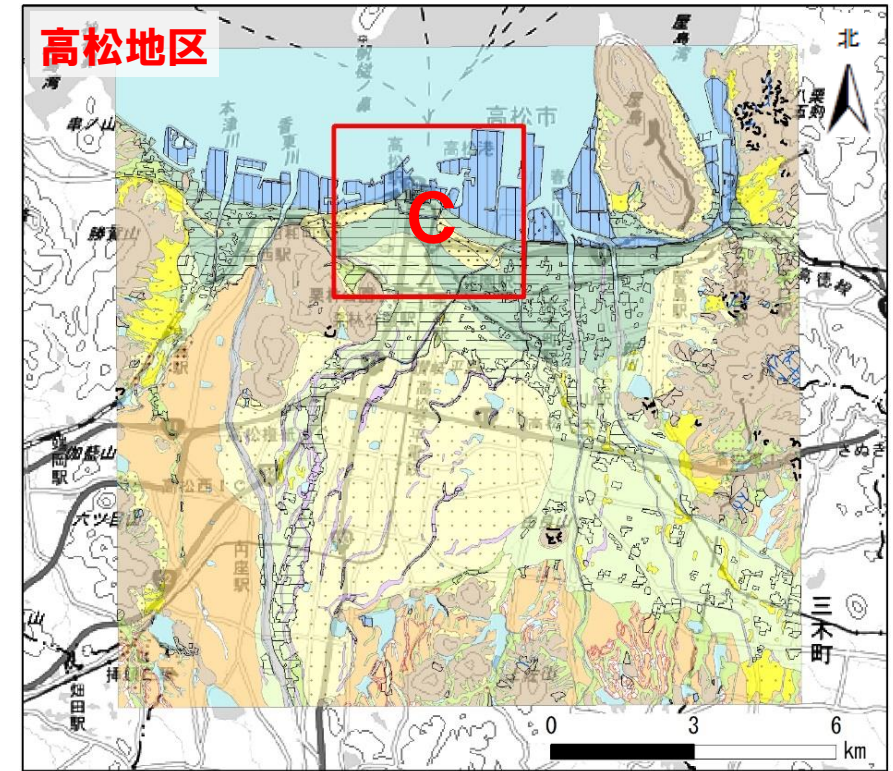
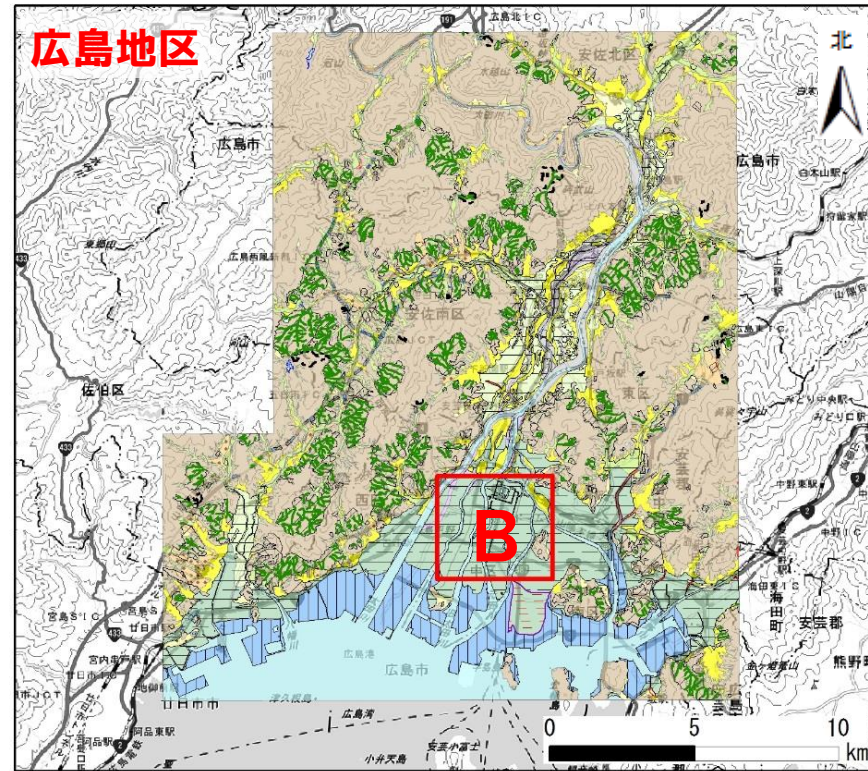
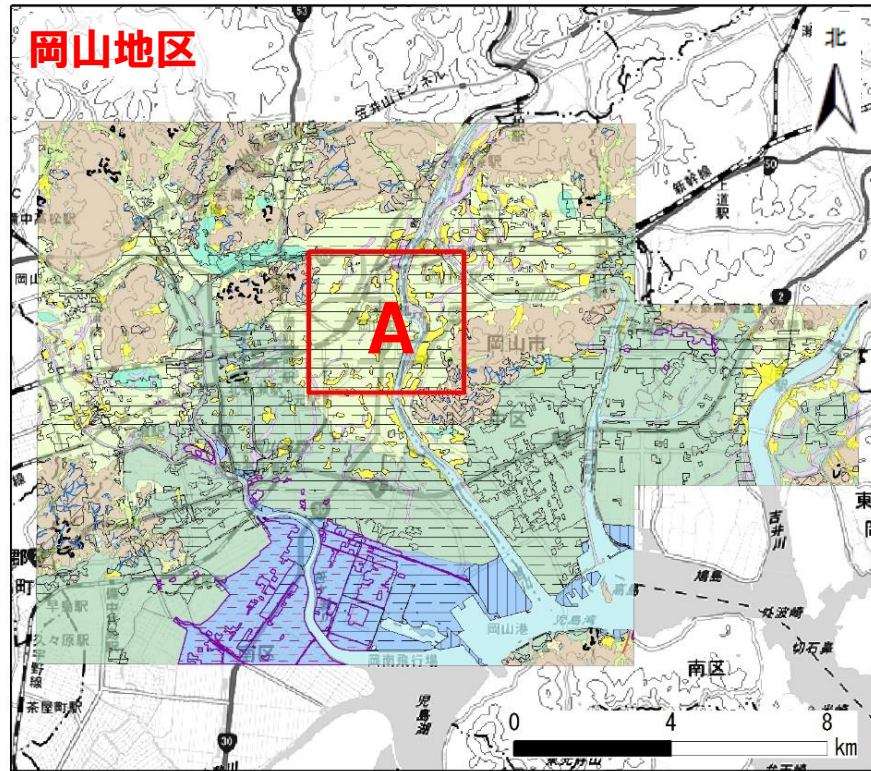
 **注意 ! 必読のこと !**

本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、
確定的な分析ではありません。

実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に
詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

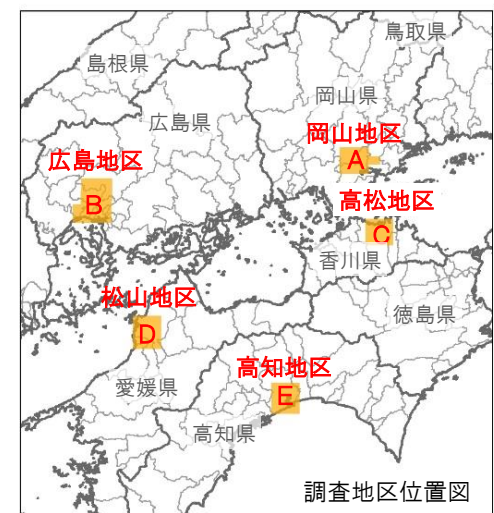
1. 土地の成り立ちから地域の安全性を知る
 (自然地形及び人工地形分類図)

我が国においては、戦後の高度成長期（1960年～75年頃）に、土地造成などにより急速に地形の改変が進んだことから、人の手が加わる以前の地形の姿である「自然地形分類」を知ることは非常に重要です。この図は本来の地形である「自然地形」と「人工地形」の重ね合わせにより、いる場所が、元々はどのような地形だったのかを確認することにより、自然災害に対する脆弱性やリスクなどを理解する手がかりとなるものです。



自然地形分類	
[Brown pattern]	山地斜面等
[Green pattern]	麓斜面及び崖錐
[Yellow pattern]	土石流堆積地
[Orange pattern]	砂礫台地（更新世段丘）
[Light orange pattern]	砂礫台地（完新世段丘）
[Yellow-green pattern]	緩扇状地
[Light green pattern]	扇状地
[Light blue pattern]	谷底低地
[Light purple pattern]	氾濫原低地
[Yellow box]	自然堤防
[Purple box]	旧河道
[Green box]	湿地
[Light blue box]	三角州・海岸低地
[Yellow box]	砂州・砂堆（礫州・礫堆）
[Light yellow box]	天井川及び天井川沿いの微高地
[Grey box]	河原・河川敷
[Light blue box]	浜
[Light blue box]	現水部
[Dark blue box]	旧水部
[Grey box]	崖

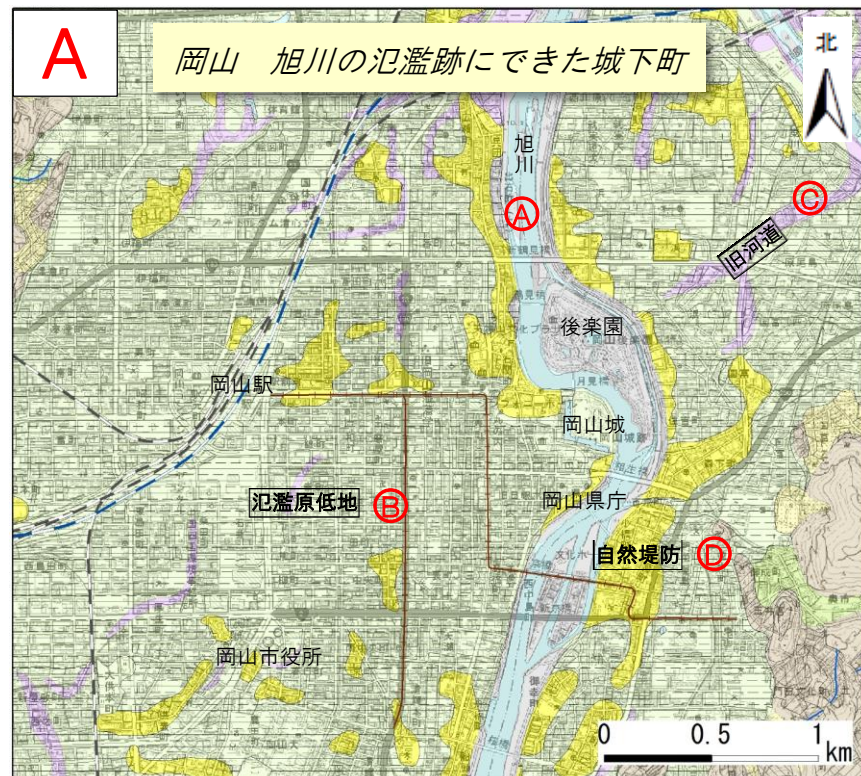
人工地形分類	
[White box]	人工平坦地（宅地等）
[Light blue box]	人工平坦地（農地等）
[Dotted box]	改変工事中の区域
[Grey box]	切土地
[Light blue box]	盛り土
[Dark blue box]	埋立地
[Light blue box]	干拓地
[Light blue box]	人工水面
[Green line]	旧谷線



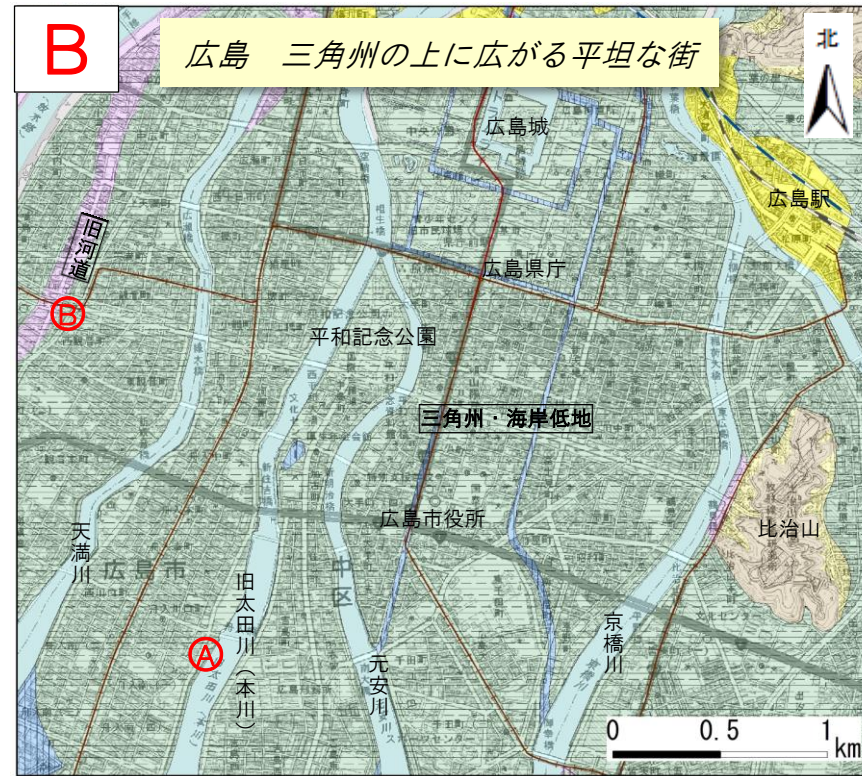
注意！ 必読のこと！ 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平 27 情複、第 666 号）

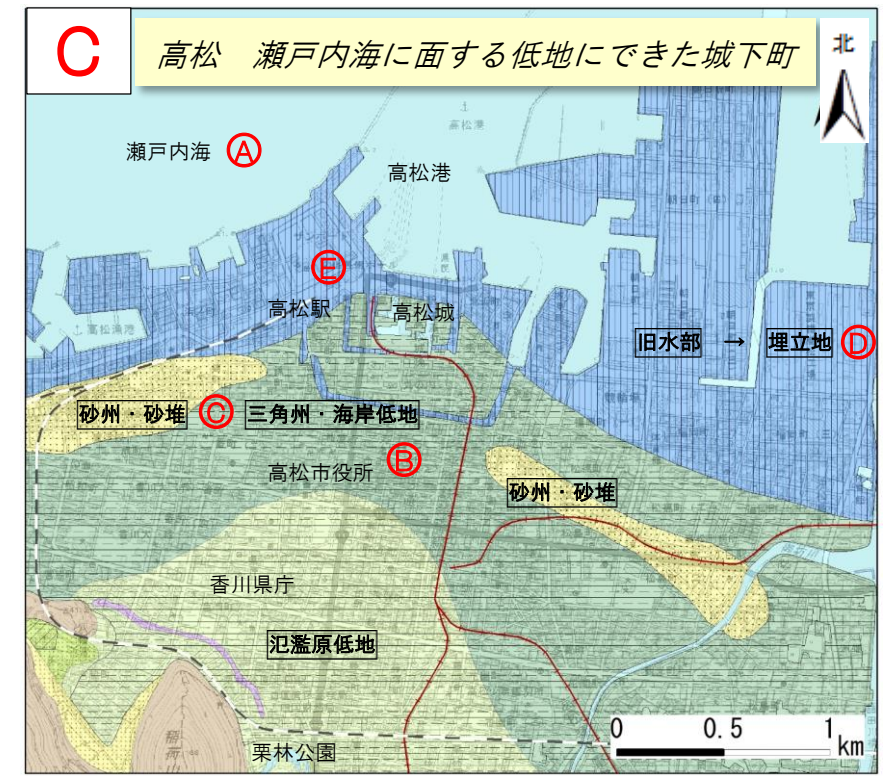
※背景図は電子地形図（タイル）を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順



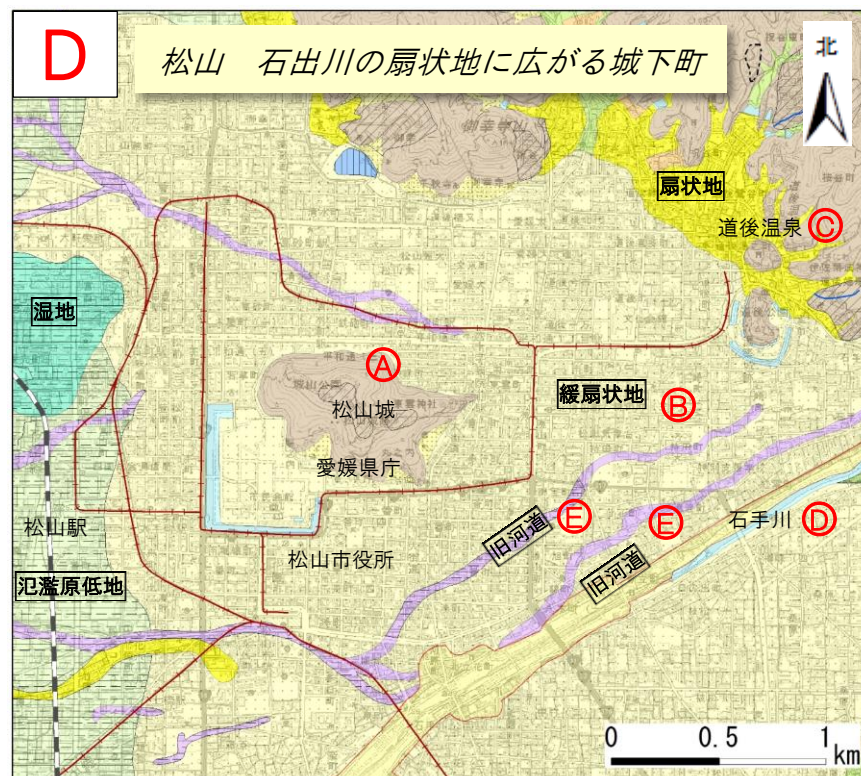
岡山市の中心市街地は、旭川(A)沿いの氾濫原低地上を中心に南西部の三角州上に連続して広がっている。氾濫原低地(B)や川の東側には多くの旧河道(C)が確認できる。また、東側には自然堤防(D)がある。



広島市の中心市街地は、太田川(A)によって形成された三角州上にある。市街地の南側には遠浅の海面を埋め立てることにより新たな土地が広がっている。また、西側には旧河道上(B)にも市街地がある。



高松市の中心市街地は、瀬戸内海(A)に面した三角州・海岸低地(B)、砂州・砂堆(C)の上に立地する。また、海側には広大な埋立地(D)が広がり、高松駅(E)を含め工業地帯を形成している。



松山市の中心市街地は、松山城が築城された孤立丘(A)を中心に扇状地(B)上に立地する。道後温泉(C)は市街地東部の山際の扇状地に立地しているほか、市街地内には石出川(D)の氾濫による旧河道(E)が多く確認できる。

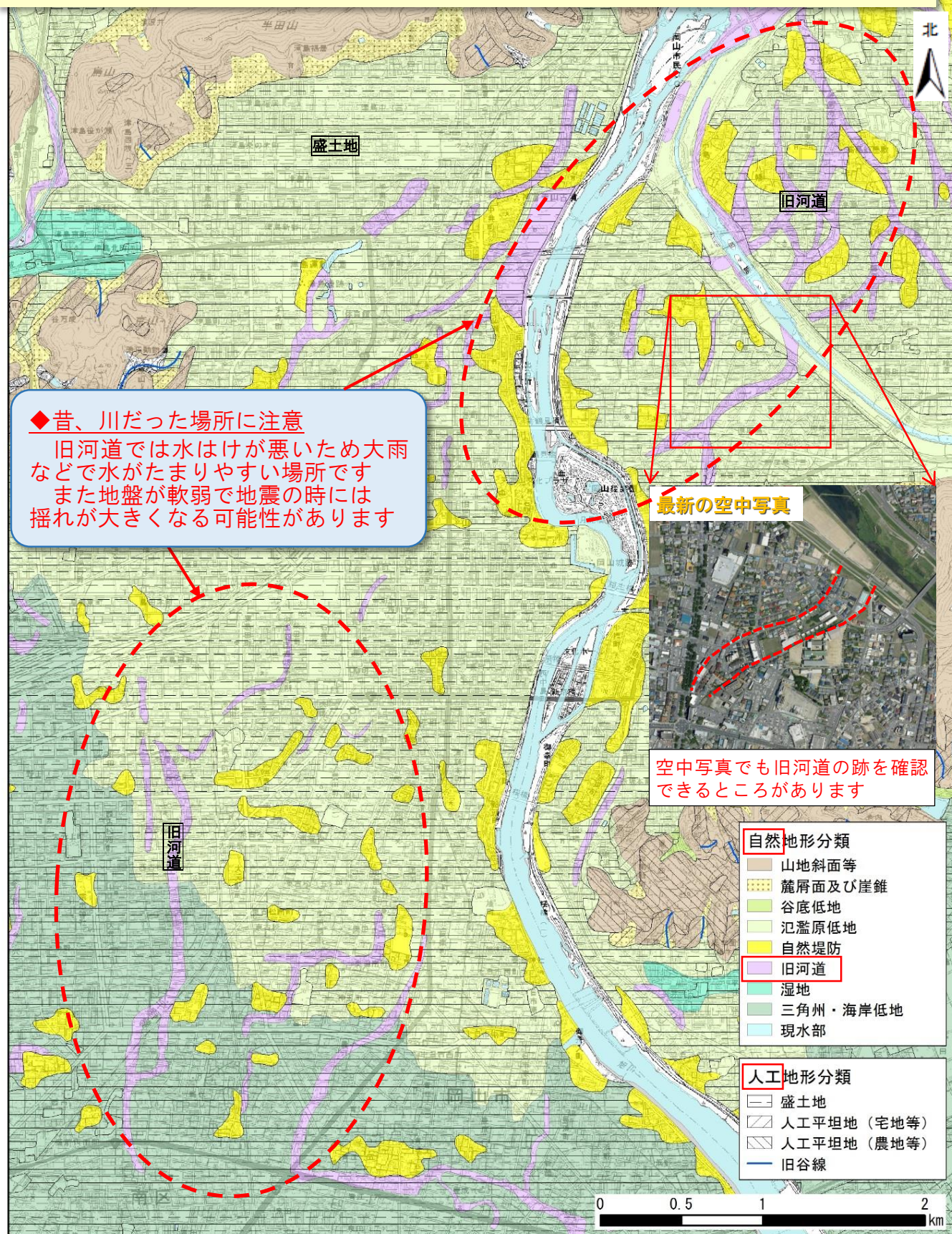


高知市の中心市街地は、鏡川(A)と久万川(B)に挟まれた氾濫原低地(C)、三角州・海岸低地(D)上に立地する。氾濫原低地には旧河道(E)が多く確認できるほか、東側に向けて自然堤防(F)が延びている。

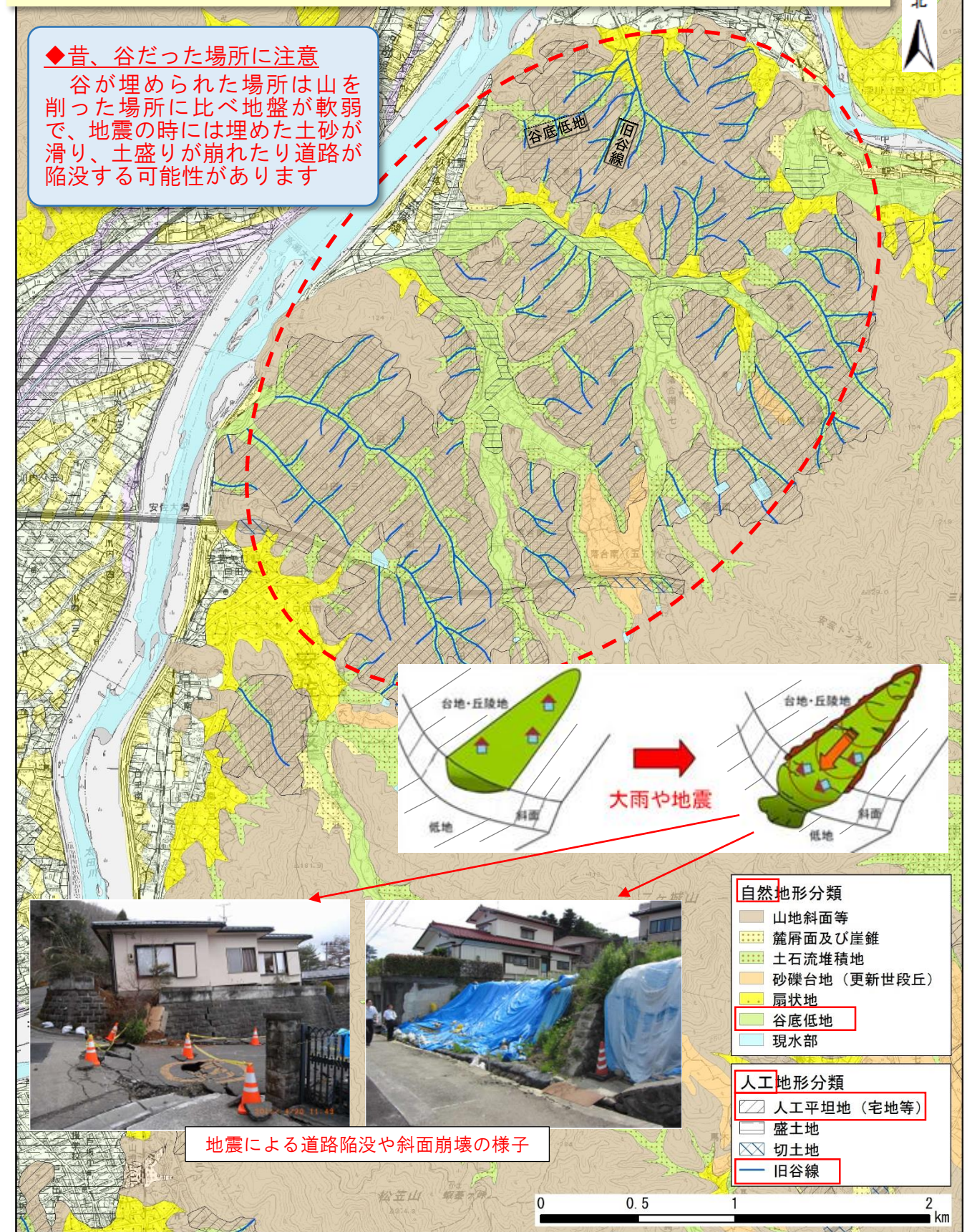
自然地形分類	人工地形分類
山地斜面等	人工平坦地(宅地等)
麓斜面及び崖錐	人工平坦地(農地等)
土石流堆積地	改変工事中の区域
砂礫台地(更新世段丘)	切土地
砂礫台地(完新世段丘)	盛土地
緩扇状地	埋立地
扇状地	干拓地
谷底低地	人工水面
氾濫原低地	旧谷線
自然堤防	
旧河道	
湿地	
三角州・海岸低地	
砂州・砂堆(礫州・礫堆)	
天井川及び天井川沿いの微高地	
河原・河川敷	
浜	
現水部	
旧水部	
崖	

注意 ! 必読のこと! 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用にあたっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。
 ※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平 27 情複、第 666 号)
 ※背景図は電子地形図(タイル)を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順

1 同じように見える場所でも、特殊な地盤の所があります（旧河道など）



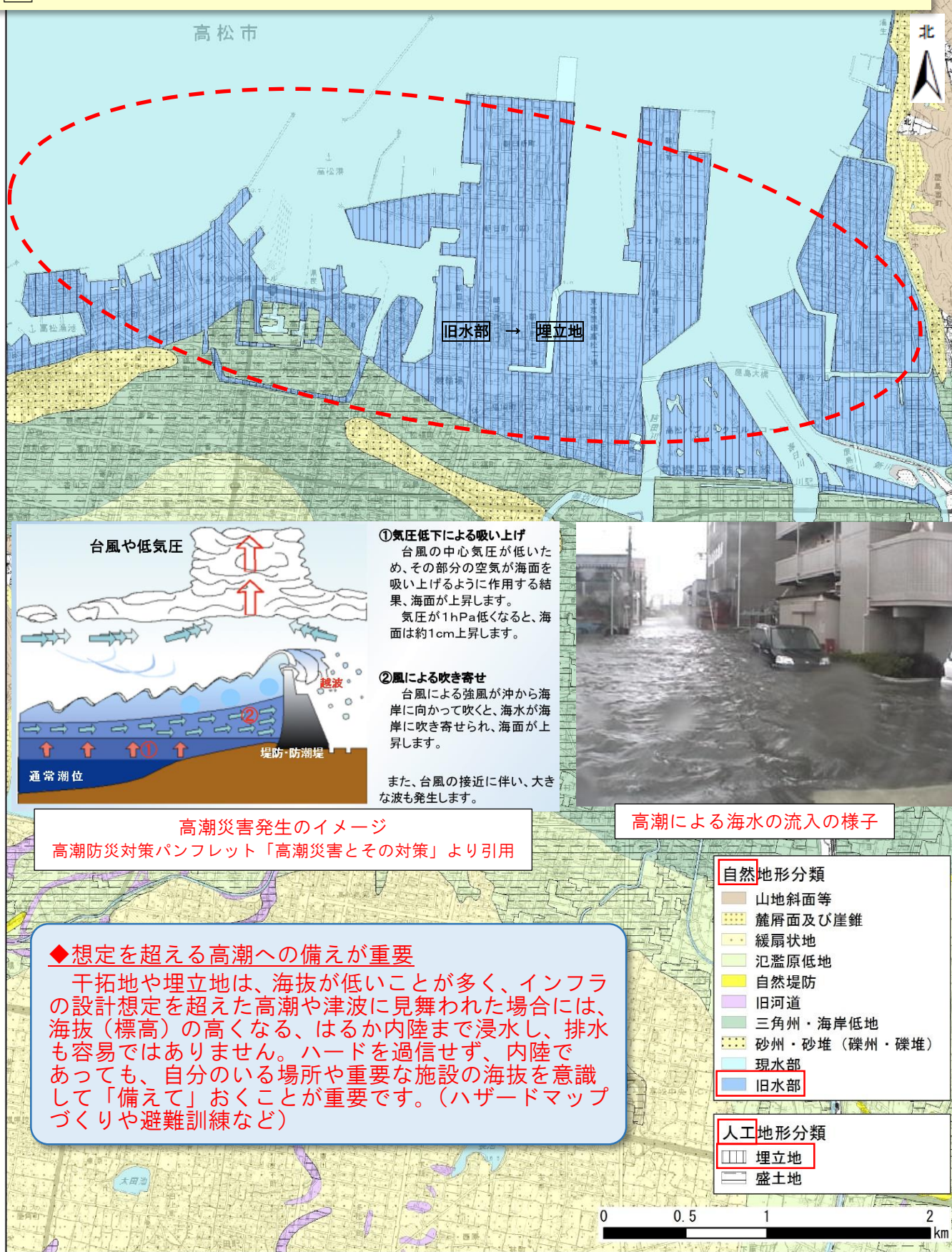
2 一見高低差のない住宅地でも土砂災害が波及する懸念があります



注意 ! 必読のこと! 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

3 ※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平 27 情複、第 666 号）
※背景図は電子地形図（タイル）を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順

3 干拓地や埋立地では高潮への備えが重要です（ハード対策＋ソフト対策）



4 河口部の低地や天井川では、洪水・高潮だけでなく、
軟弱地盤対策も大切です（遠くで発生した地震による液状化など）

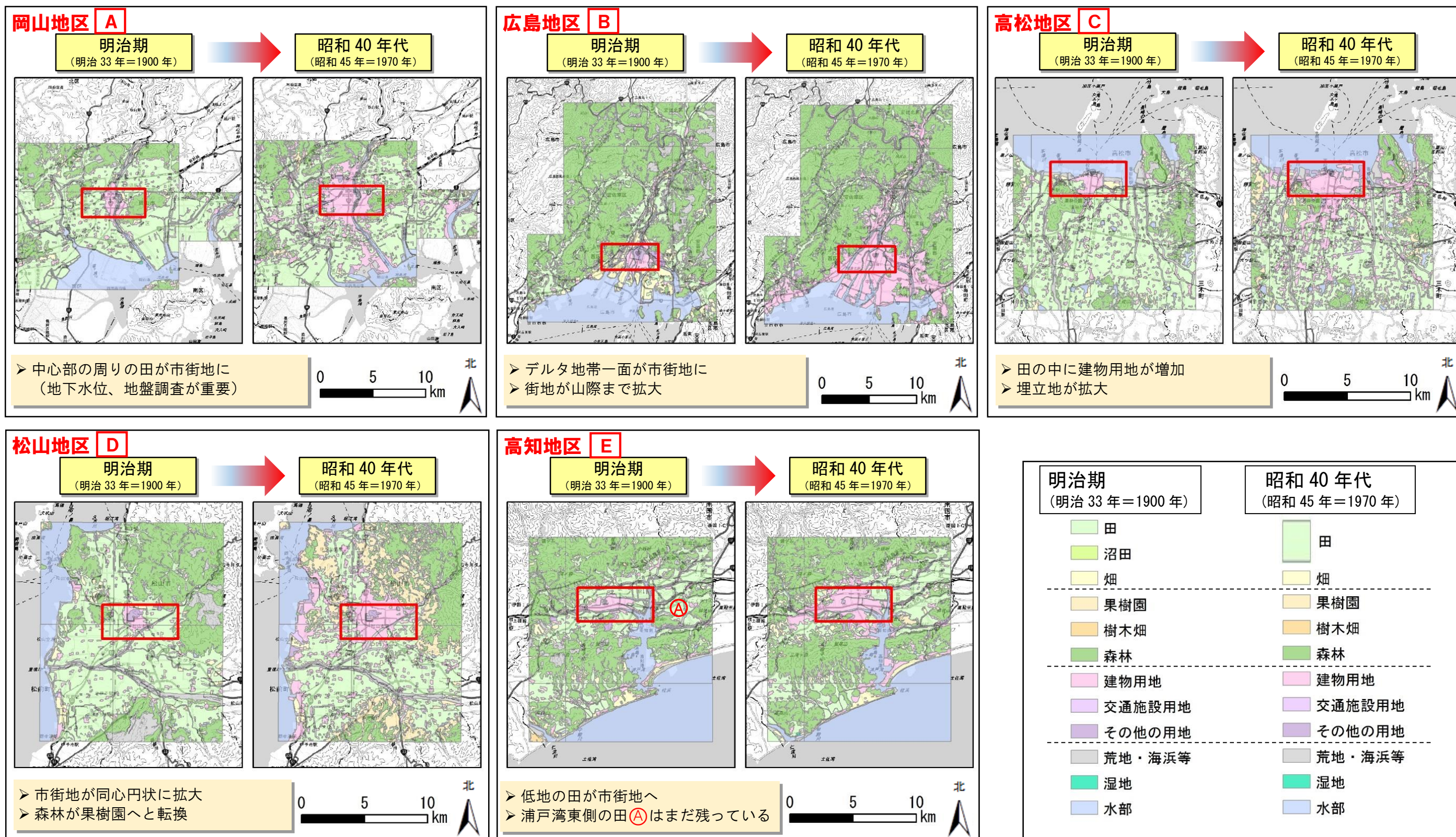


⚠️注意 ！必読のこと！ 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平27情複、第666号）

※背景図は電子地形図（タイル）を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順

2. 土地利用の変遷を知る ・ ・ ・ 戦後の高度成長期には、明治期には水田や森林であった場所に市街地（建物用地）が大きく拡大しました。この地図からは、そのことが読みとれます。50 年前、100 年前（50 年前・100 年前の土地利用分類図）の地図からは、海面やため池を埋め立てた土地、低湿な水田から転用された土地など、その土地の安全性を判断する際に参考となる情報を得ることができます。



注意 ! 必読のこと ! 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

※「明治 33 年=1900 年」、「昭和 45 年=1970 年」の表記は時代の目安であり、使用されている各地図はおおむねその前後の時期のものです

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平 27 情複、第 666 号）

※背景図は電子地形図（タイル）を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順

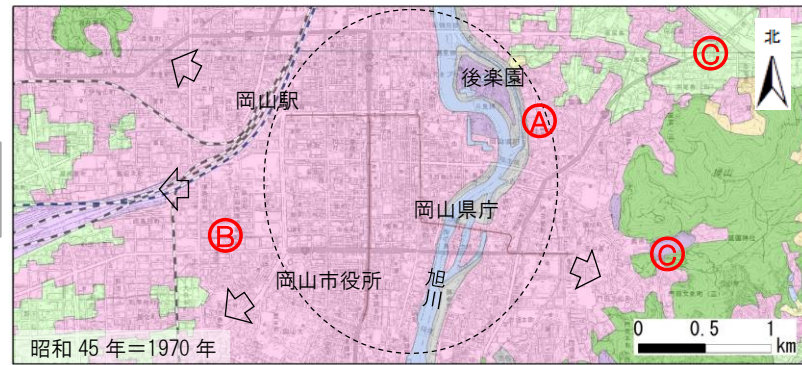
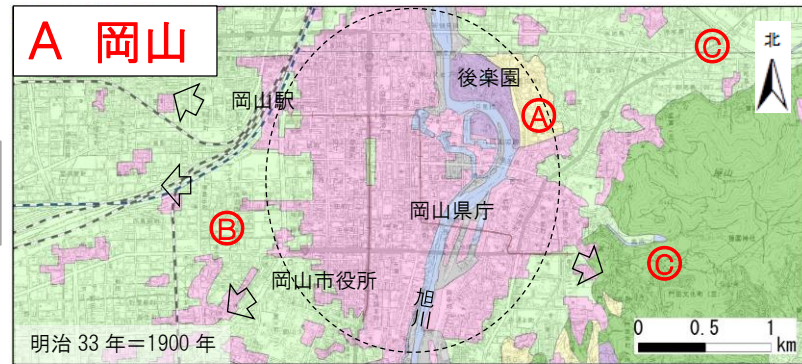
今の中心市街地は、もともとどんな場所だったか？ : 県庁・市役所・城跡を含む中心地の、この100年の変遷

明治期
(明治33年=1900年)

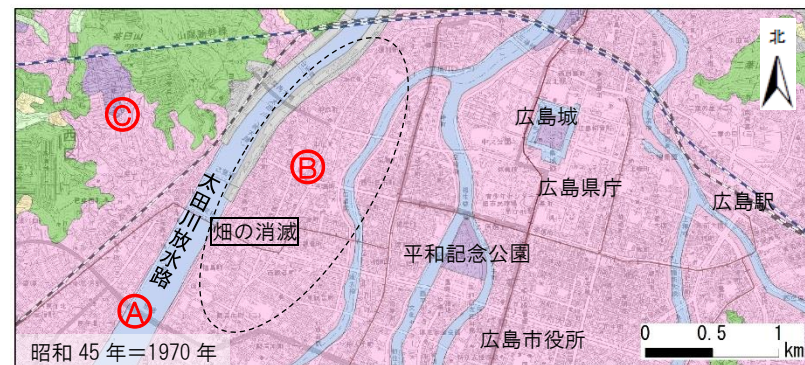
昭和40年代
(昭和45年=1970年)

明治期
(明治33年=1900年)

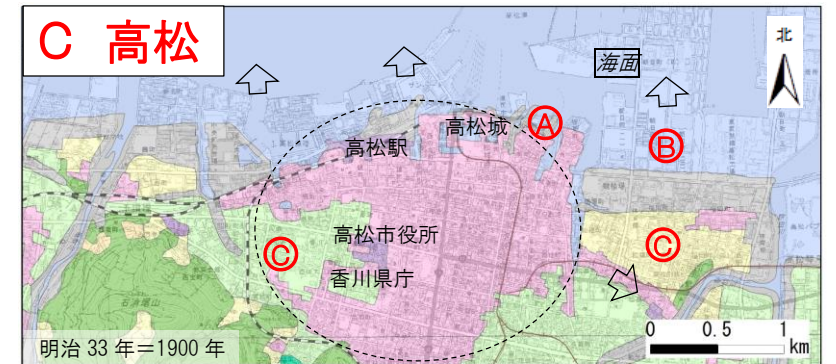
昭和40年代
(昭和45年=1970年)



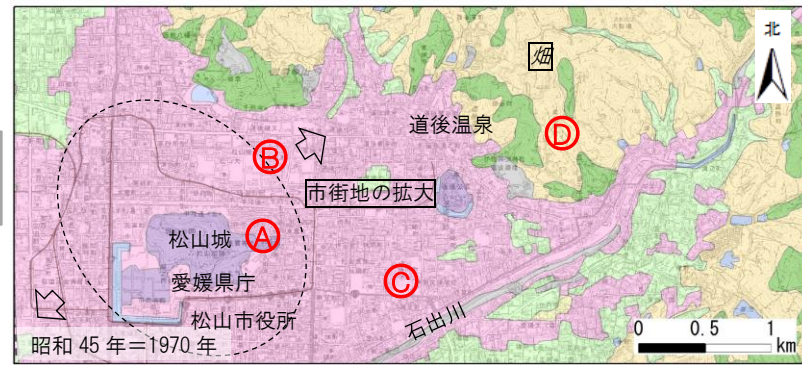
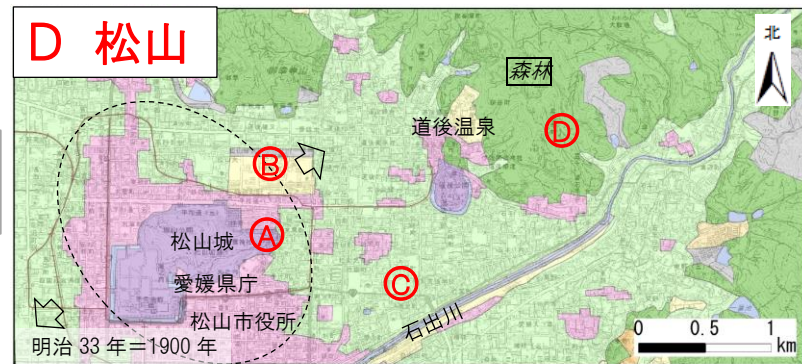
明治期の市街地の範囲は狭く周辺には田・畑(A)が広がっていたが、昭和40年代には西方向へ市街地(B)が大きく拡大したほか、東側の丘陵地の森林(C)も建物用地への転換が進んでいる。



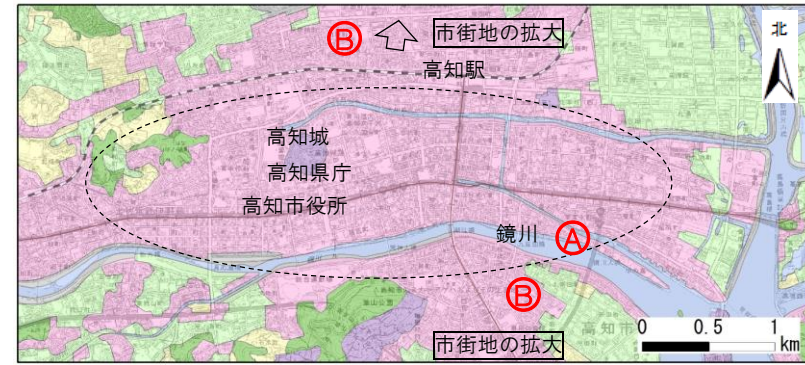
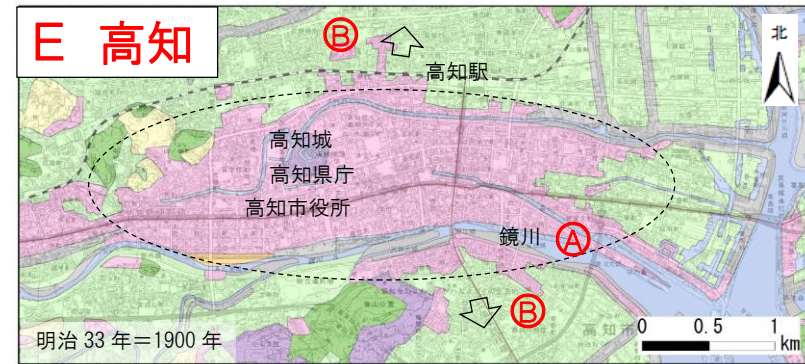
明治期の市街地は拡大途上で現在の太田川放水路(A)東側には畑が広がっていた。昭和40年代には低地部すべてが市街地(B)となったほか、低地周縁の森林(C)も建物用地への転換が進んでいる。



明治期の市街地は瀬戸内海に面した高松城(A)を中心に内陸部側に小規模なものだったが、昭和40年代には埋立地が北側へ拡大(B)したほか、西側でも建物用地への転換(C)が進んでいる。



明治期の市街地は松山城(A)を中心とした狭い範囲で周辺には田・畑(B)が広がっていたが、昭和40年代には石出川北側(C)で大きく市街地が拡大し、道後温泉につながった。その東側の森林(D)は畑に変わった。



明治期の市街地は鏡川(A)北側で東西方向に細長く形成されていたが、昭和40年代には南北方向へ拡大が進み、田(B)の多くが建物用地へと転換されている。

明治期 (明治33年=1900年)	昭和40年代 (昭和45年=1970年)
田	田
沼田	畑
畑	畑
果樹園	果樹園
樹木畑	樹木畑
森林	森林
建物用地	建物用地
交通施設用地	交通施設用地
その他の用地	その他の用地
荒地・海浜等	荒地・海浜等
湿地	湿地
水部	水部

注意 ! 必読のこと! 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

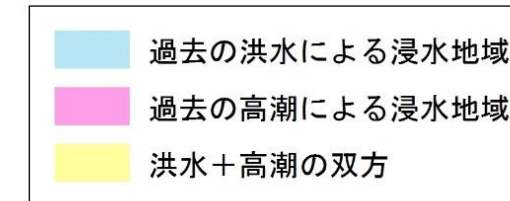
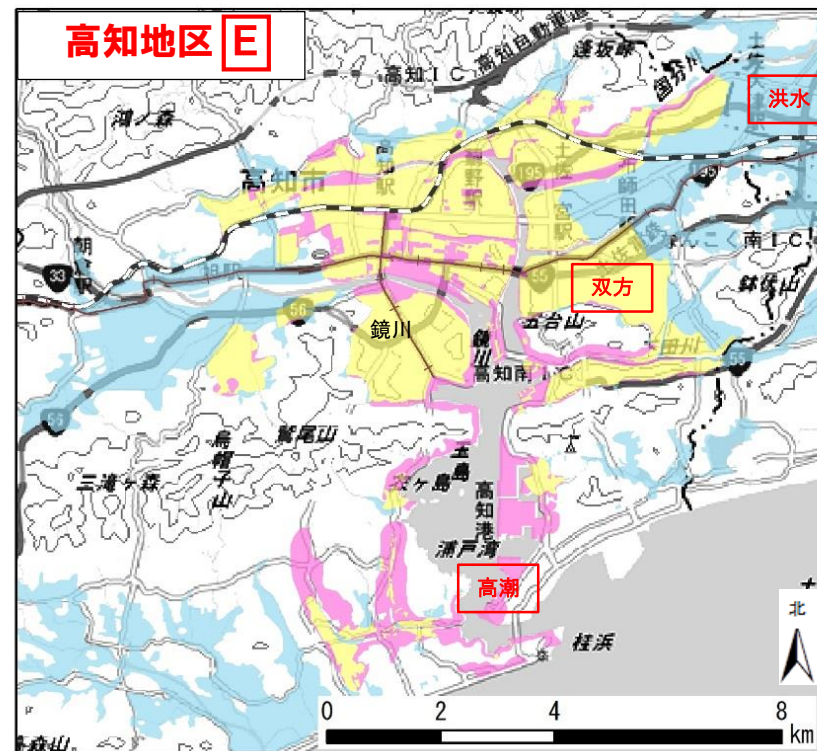
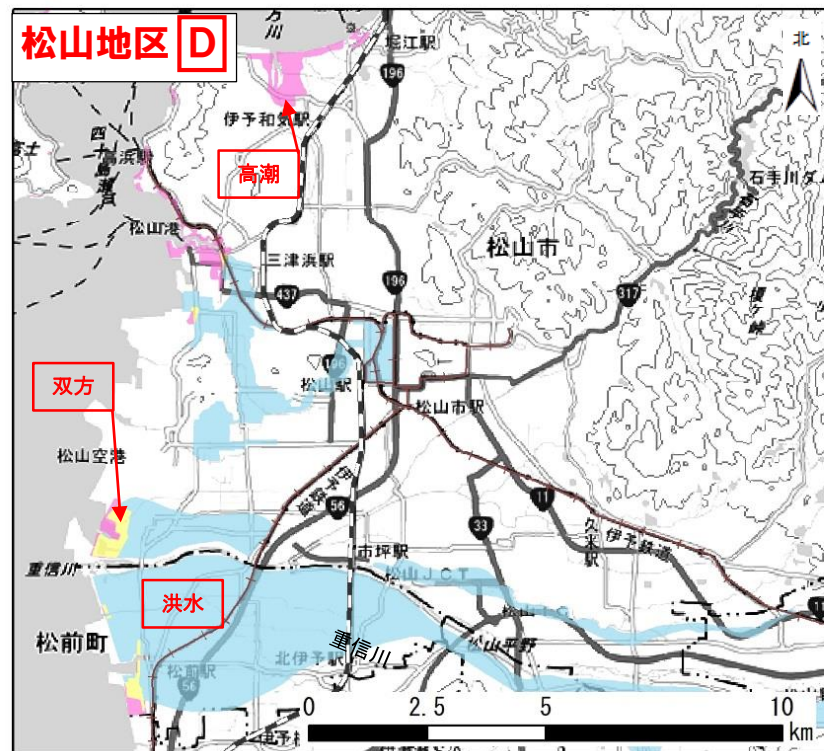
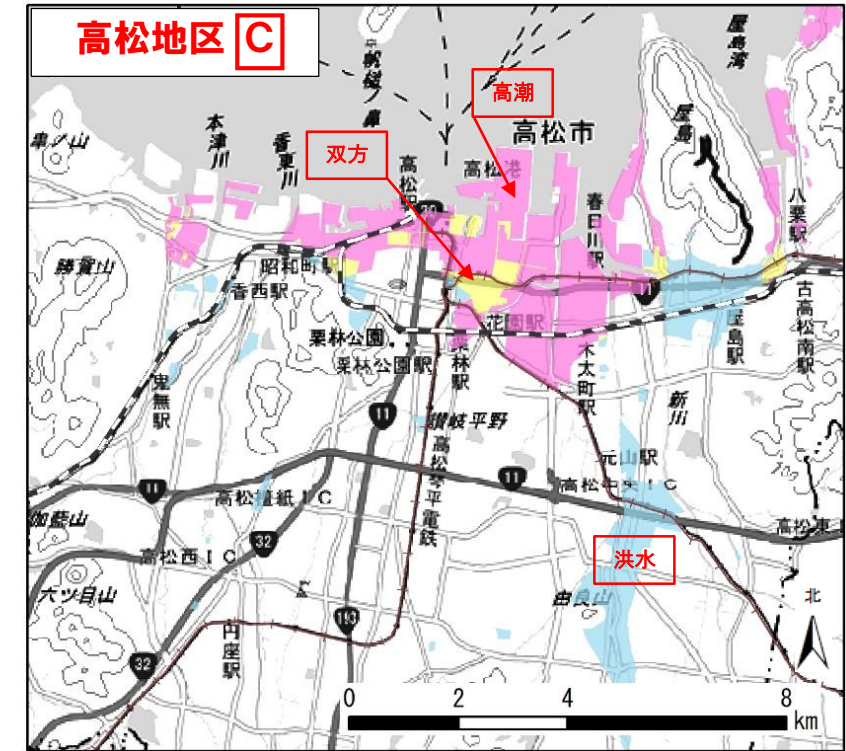
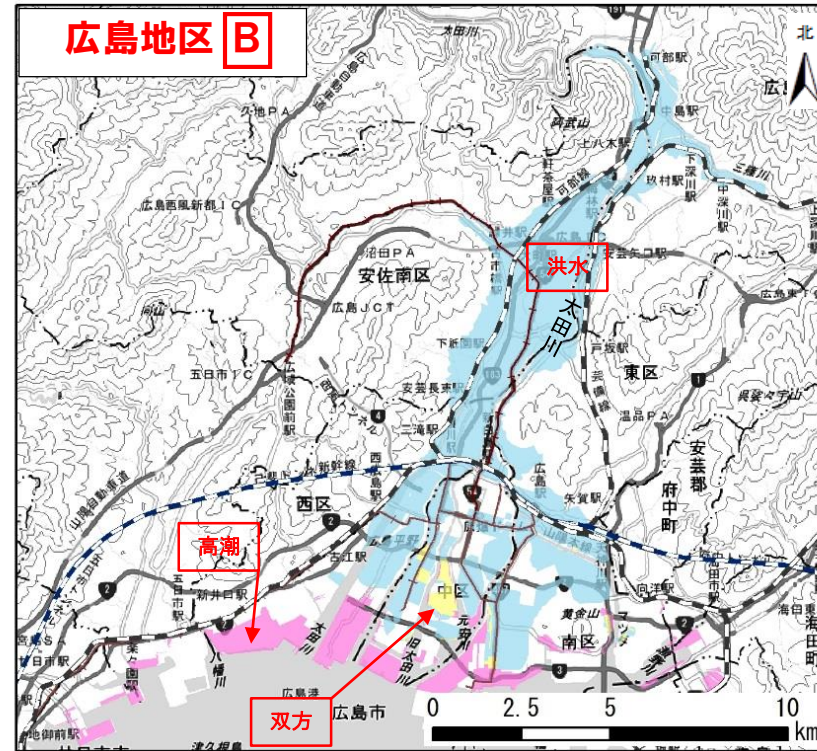
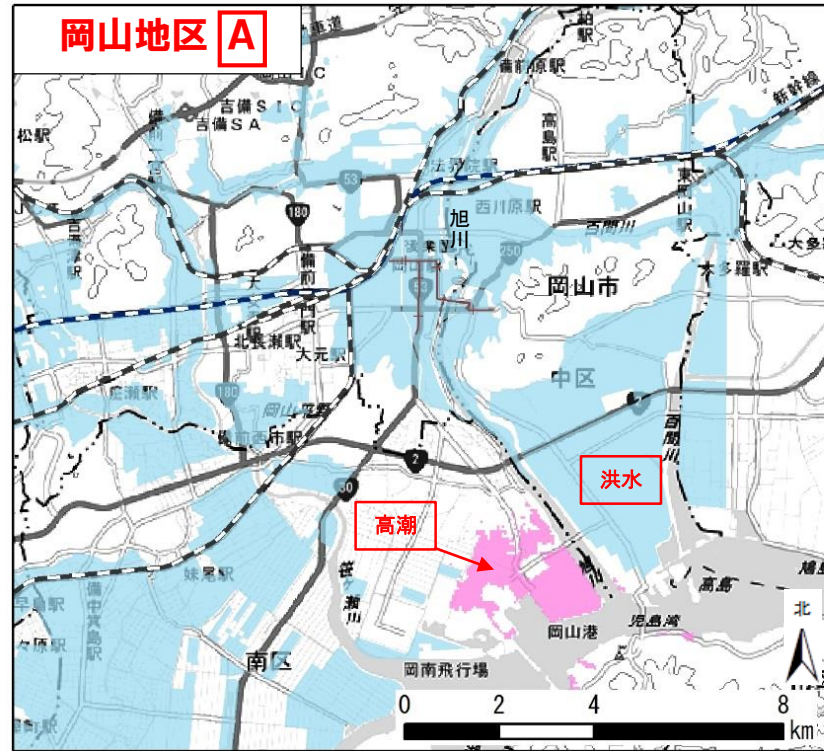
※「明治33年=1900年」、「昭和45年=1970年」の表記は時代の目安であり、使用されている各地図はおおむねその前後の時期のものです

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平27情複、第666号)

※背景図は電子地形図(タイル)を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順

3. 災害の発生状況を知る（災害履歴図）・・・山陽・四国地方の沿岸部は、瀬戸内海の干潟や太平洋からの台風等の影響で過去の大きな高潮被害を受けた地域で、現在も設備が欠かせません。また、急峻な地形が多く山地が近い一方、平地が少なく、干拓や埋立などで河口部や河川近くに平坦低地が広がっており、洪水の被害も少なくないことから、ハザードマップの普及などが重要な地域です。台風時には、洪水と高潮の同時被害も想定し、備える必要があります。

災害履歴図（水害）



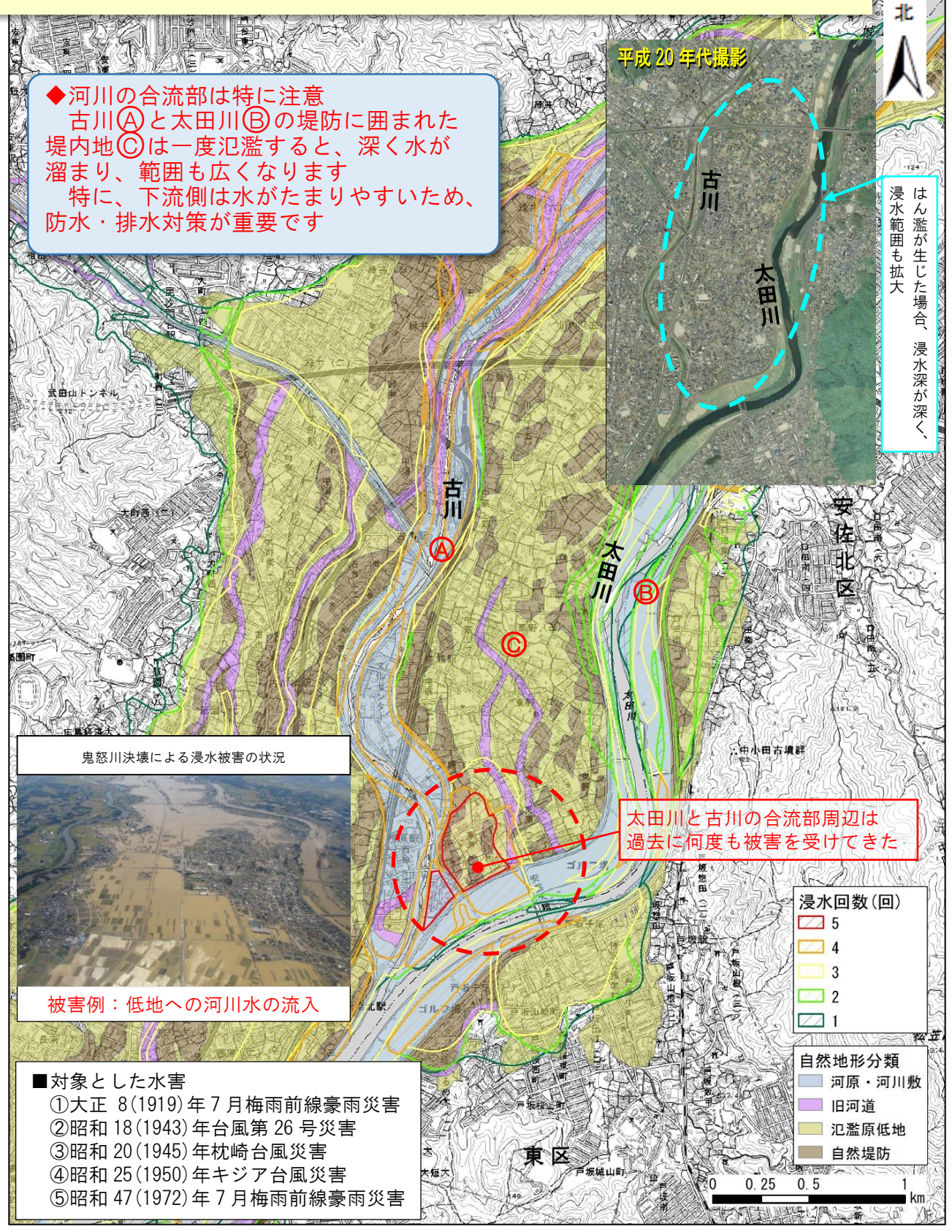
注意！必読のこと！ 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用にあたっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

※「明治33年=1900年」、「昭和45年=1970年」の表記は時代の目安であり、使用されている各地図はおおむねその前後の時期のものです

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平27情複、第666号）

※背景図は電子地形図（タイル）を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順

1 過去の浸水範囲の重ね合わせから、洪水の被害を受けやすい場所が分かります



過去の被災履歴と地形を重ね合わせ、防災や避難計画に活用できます

注意 ! 必読のこと! 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。
※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平27情複、第666号)
※背景図は電子地形図(タイル)を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順

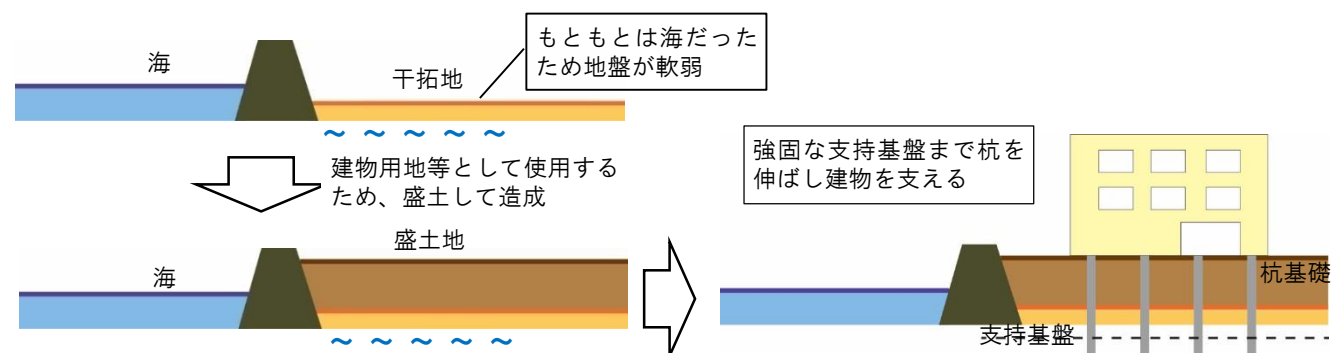
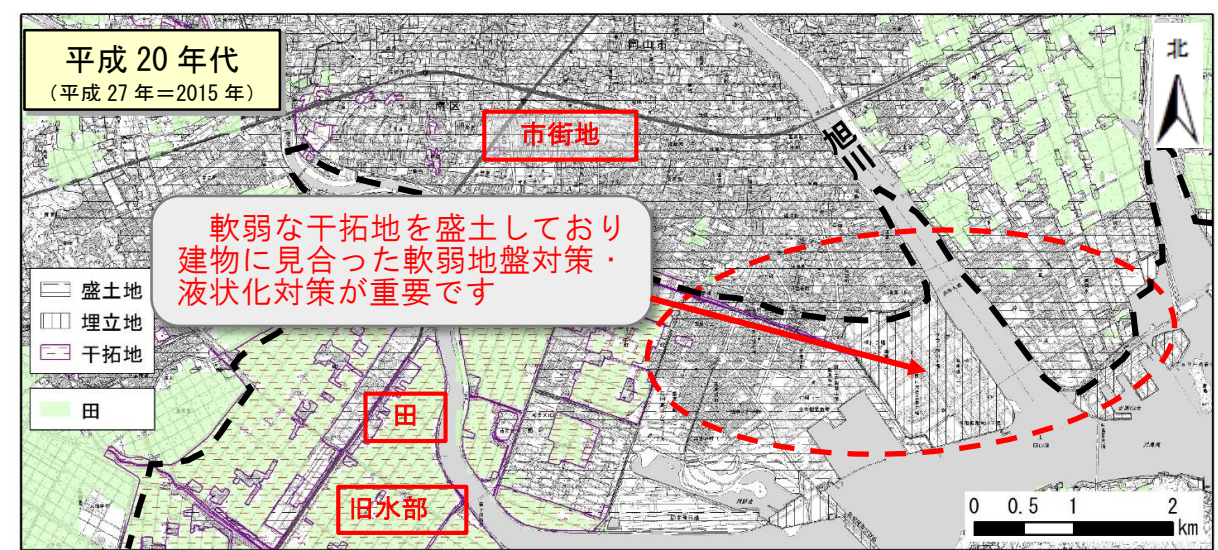
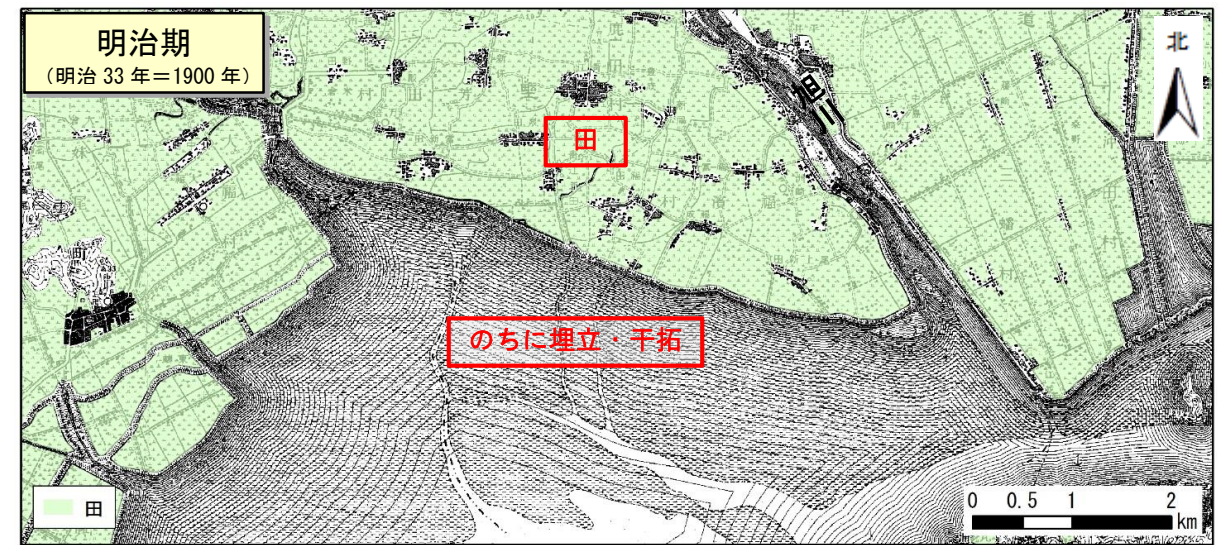
2 高潮・津波は、通常の高波とは異なります
海拔(標高)により、海から遠く離れた内陸でも注意が必要です



4. 土地履歴調査の成果と他の情報を組み合わせて活用する・・・古地図や航空写真・衛星画像など

<岡山地区>

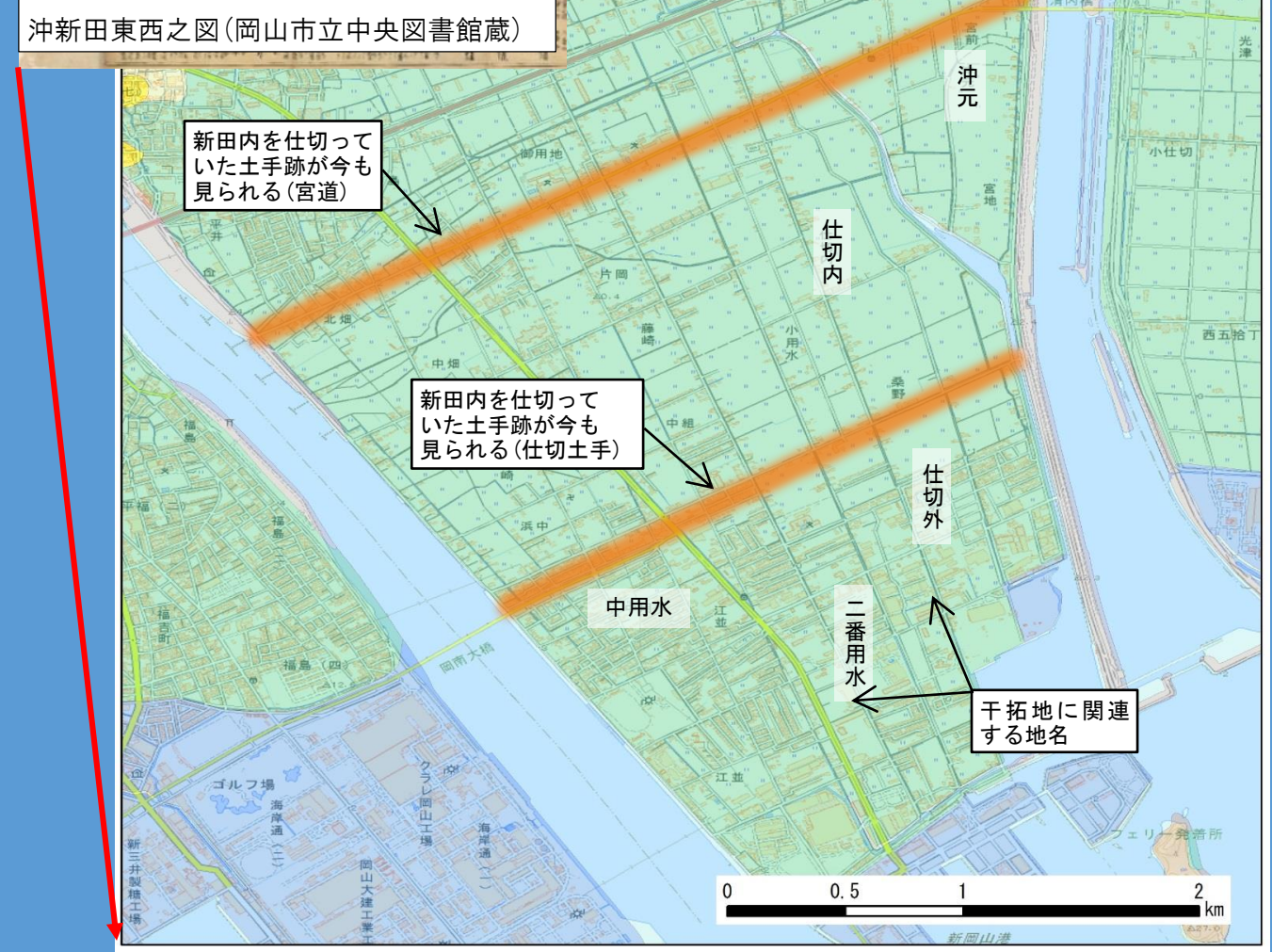
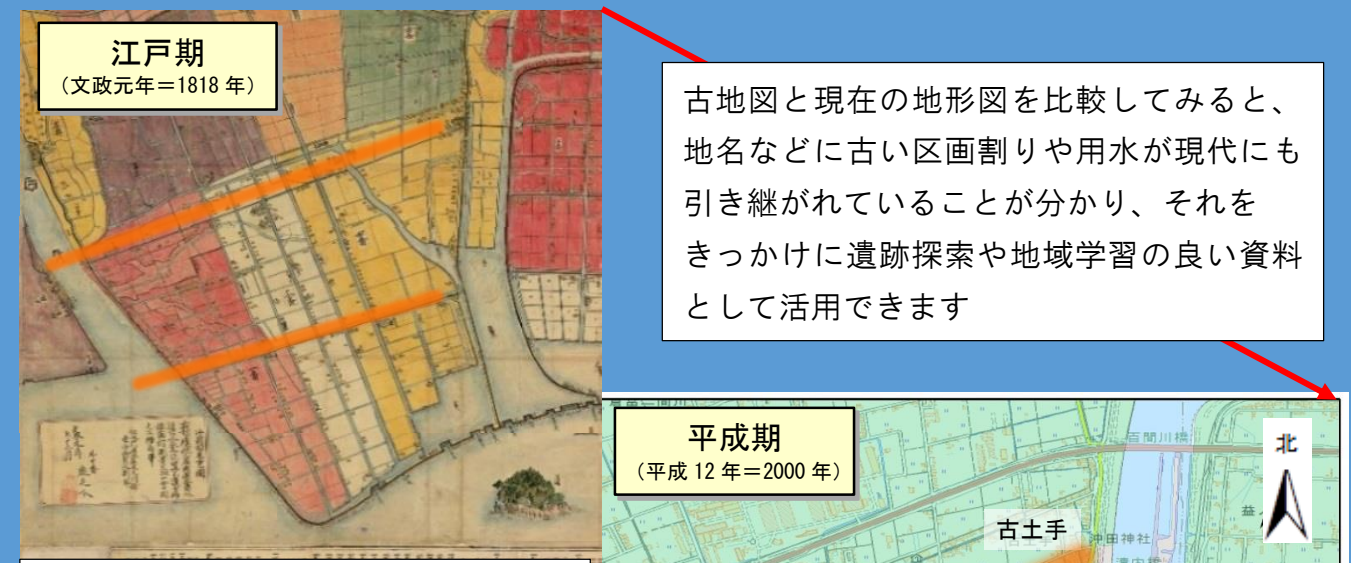
都市計画や工法の検討の参考に — 古地図を必ず参照しましょう



液状化対策の一例

液状化対策が必要な地区の選定の参考にできます

地方創生のために — 地域資源の発見ツールとして干拓地のなごりを探す

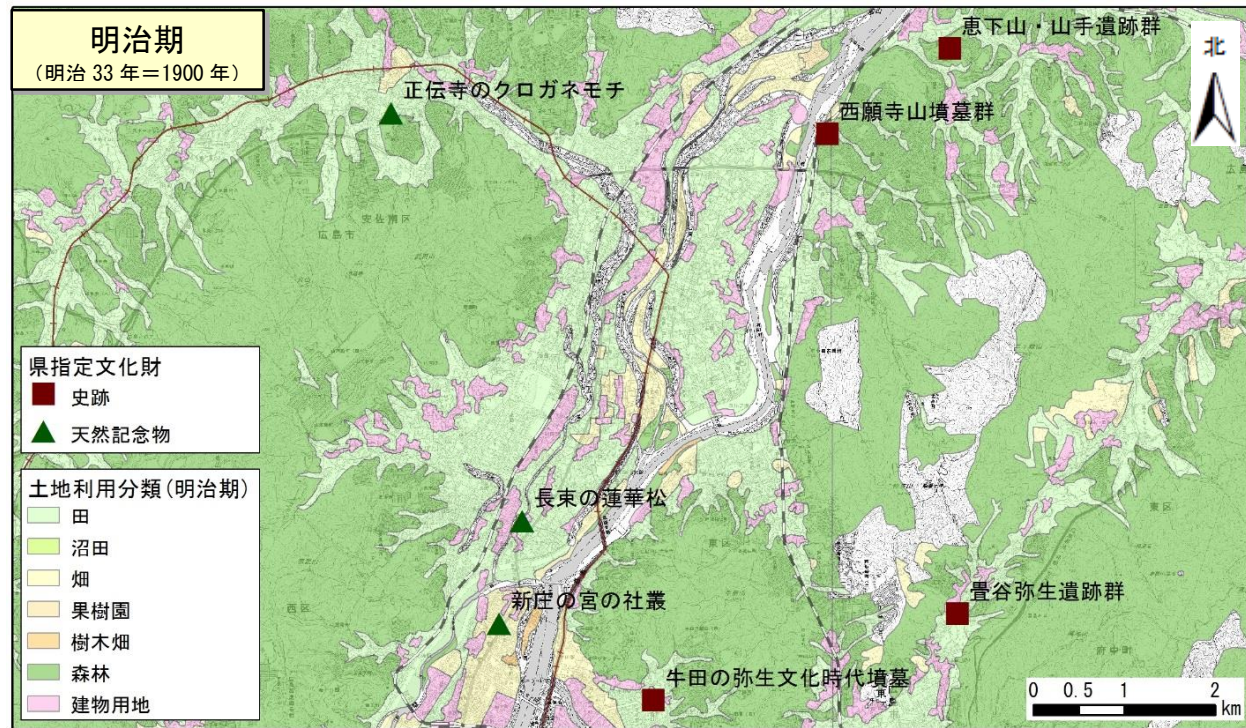


注意 ！必読のこと！ 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

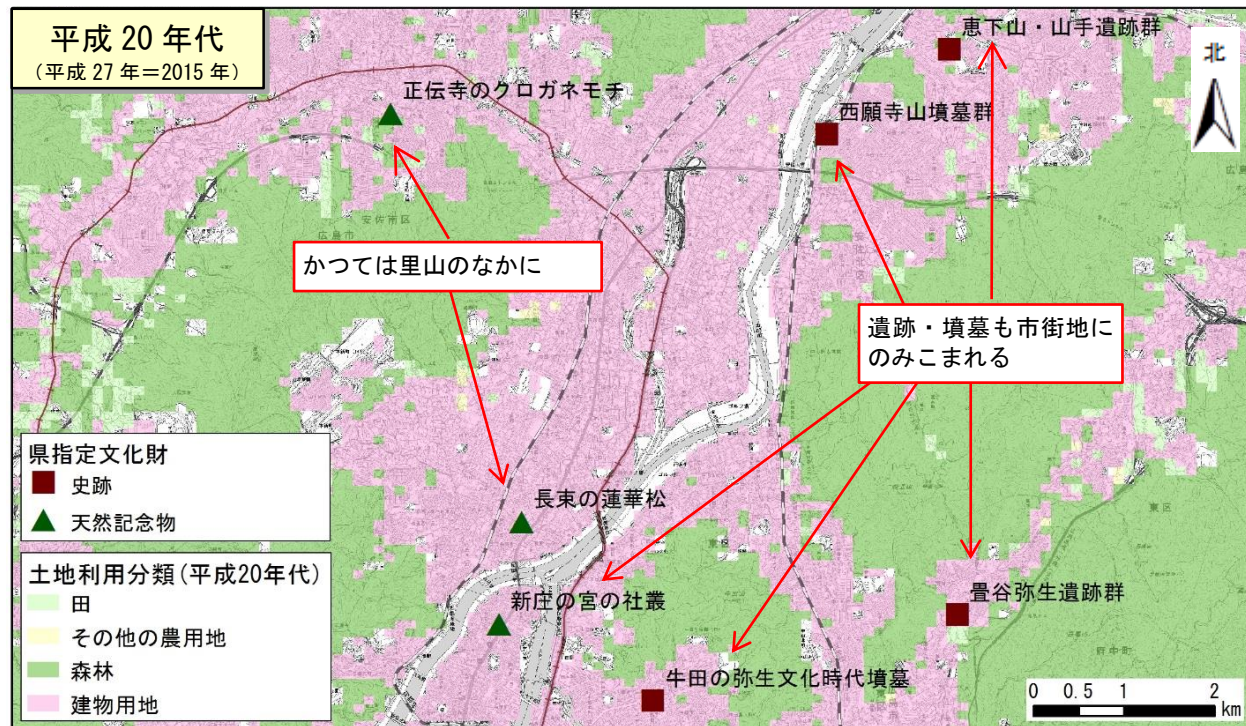
※「明治 33 年=1900 年」、「昭和 45 年=1970 年」の表記は時代の目安であり、使用されている各地図はおおむねその前後の時期のもので
 ※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平 27 情復、第 666 号）
 ※背景図は電子地形図（タイル）を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順

<広島地区> 文化財地図等との重ね合わせ

地域資源を知る資料として — 残された自然・文化資産を探し、そして守る

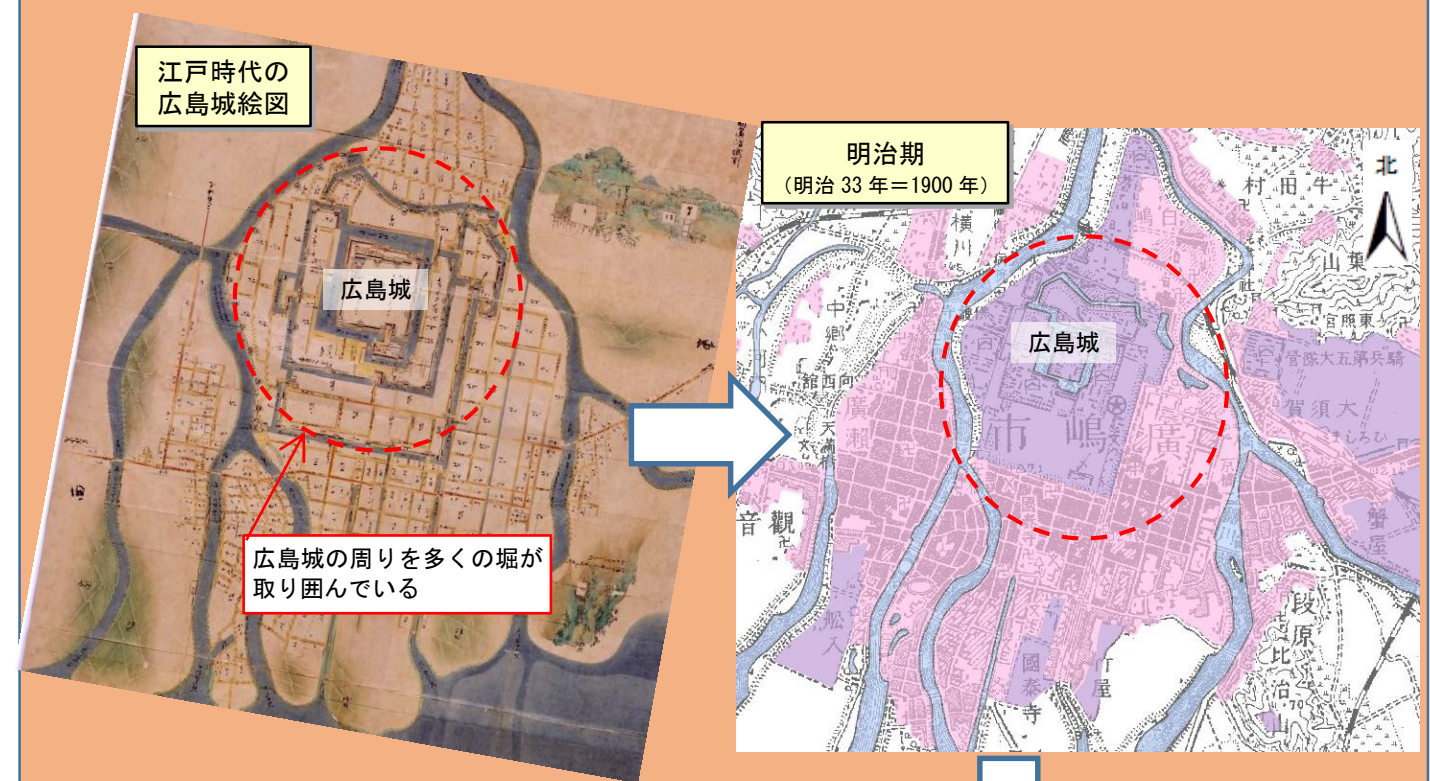


以前は緑豊かだった文化財の周辺も、
 現在では市街地が広がっています



郷土の自然・文化を学ぶための教材や文化財の保全などに活用できます

観光のテーマとして！ 広島城お堀跡を歩いてみよう



- 各地に古地図を掲示することで観光や学習に貢献
- 地名の由来を探索するマップづくりなどに活用

江戸時代には広島城の周りには多くの堀がありましたが、明治になるとほとんどが埋め立てられなくなっています。しかし、現在でもその名残が地名や通り名として残っています

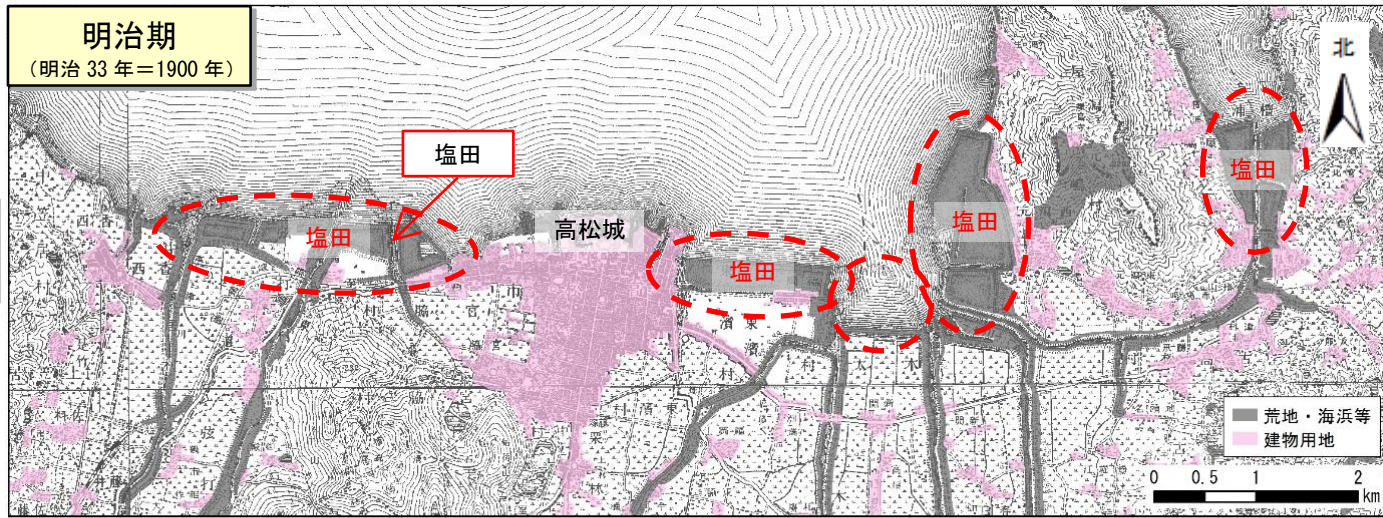


⚠️ 注意 ! 必読のこと! 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。
 ※「明治33年=1900年」、「昭和45年=1970年」の表記は時代の目安であり、使用されている各地図はおおむねその前後の時期のものです
 ※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平27情複、第666号)
 ※背景図は電子地形図(タイル)を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順

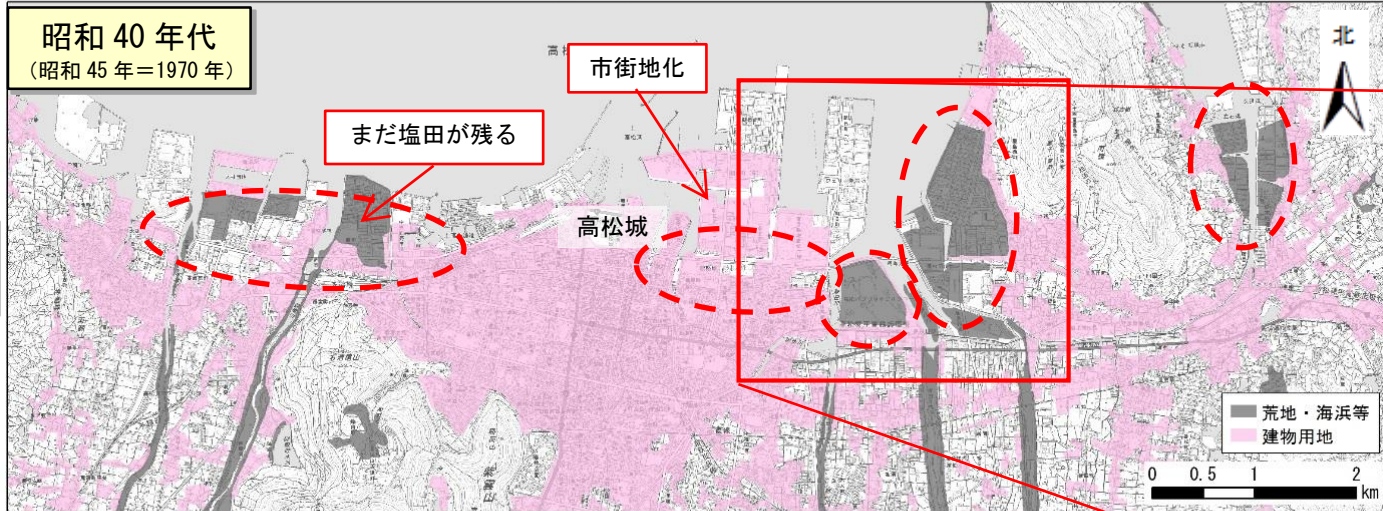
<高松地区>

産業遺構をさぐる — 瀬戸内海特有の塩田（跡）について考える

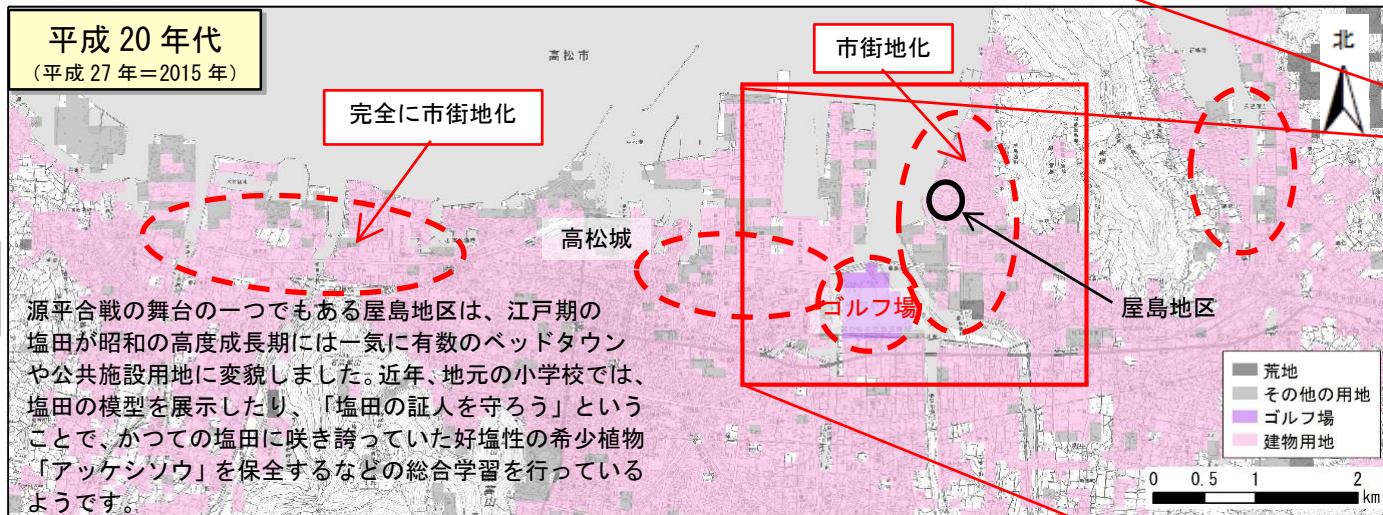
明治期
(明治33年=1900年)



昭和40年代
(昭和45年=1970年)



平成20年代
(平成27年=2015年)



源平合戦の舞台の一つでもある屋島地区は、江戸期の塩田が昭和の高度成長期には一気に有数のベッドタウンや公共施設用地に変貌しました。近年、地元の小学校では、塩田の模型を展示したり、「塩田の証人を守ろう」ということで、かつての塩田に咲き誇っていた好塩性の希少植物「アケシソウ」を保全するなどの総合学習を行っているようです。

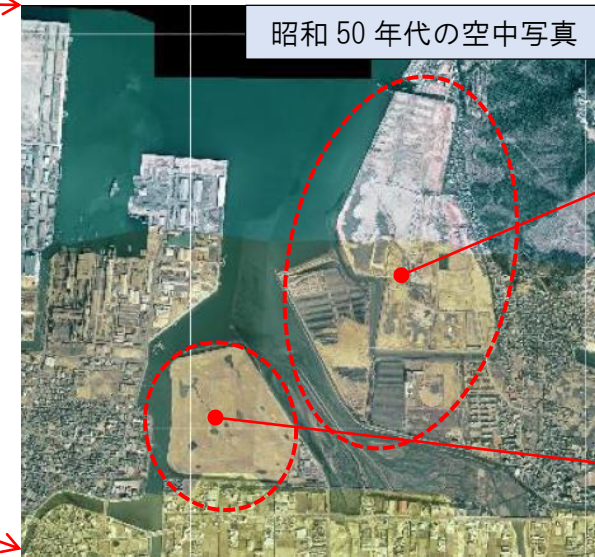
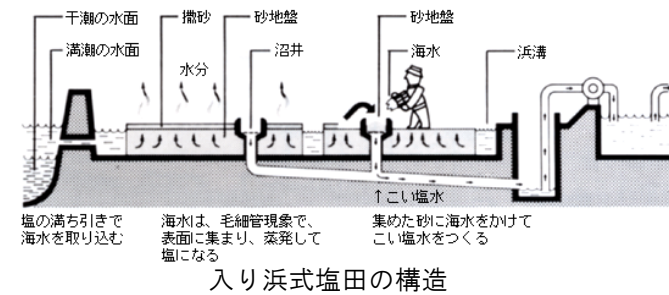
防災対策だけでなく、地域固有の歴史資源の発見や、観光資源づくりにも活用できます。

「塩田（えんでん）」は、江戸時代には各藩にとって重要な産業（収入源）であり、また地域での大きな雇用の場でもありました。特に瀬戸内の干満差を利用した製塩法（入浜式）により塩の生産量が飛躍的に伸び、高品質の瀬戸内の10州からの「十州塩」が江戸や大阪の大消費地を席卷しました。

明治に入っても、江戸以来の塩田が引き続き残っていましたが、高度成長期の電力開発の進展により、1970年代（昭和40年代後半）から次第に電気による工業製塩が主流となり、各地の塩田が全国一斉に廃止になりました。

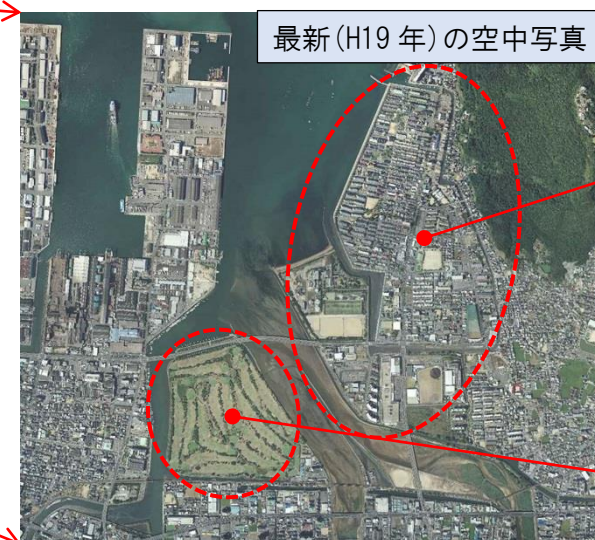
塩田の跡地は広大な平地でしたから、折からの工業開発ブームに乗り、良好な工業用地として、またゴルフ場など転用されていきました。

しかし、2000年代（平成12年前後）以降、再び自然塩が見直され、各地のブランドが復活・勃興するとともに、食の体験としての地場観光や史跡として、かつての塩田を見直す活動が全国各地に広がってきています。



塩田としての形跡が一部に残るが、造成途上の土地が多い

この頃までは塩田であったが、昭和40年代にゴルフ場として整備



現在は住宅団地等

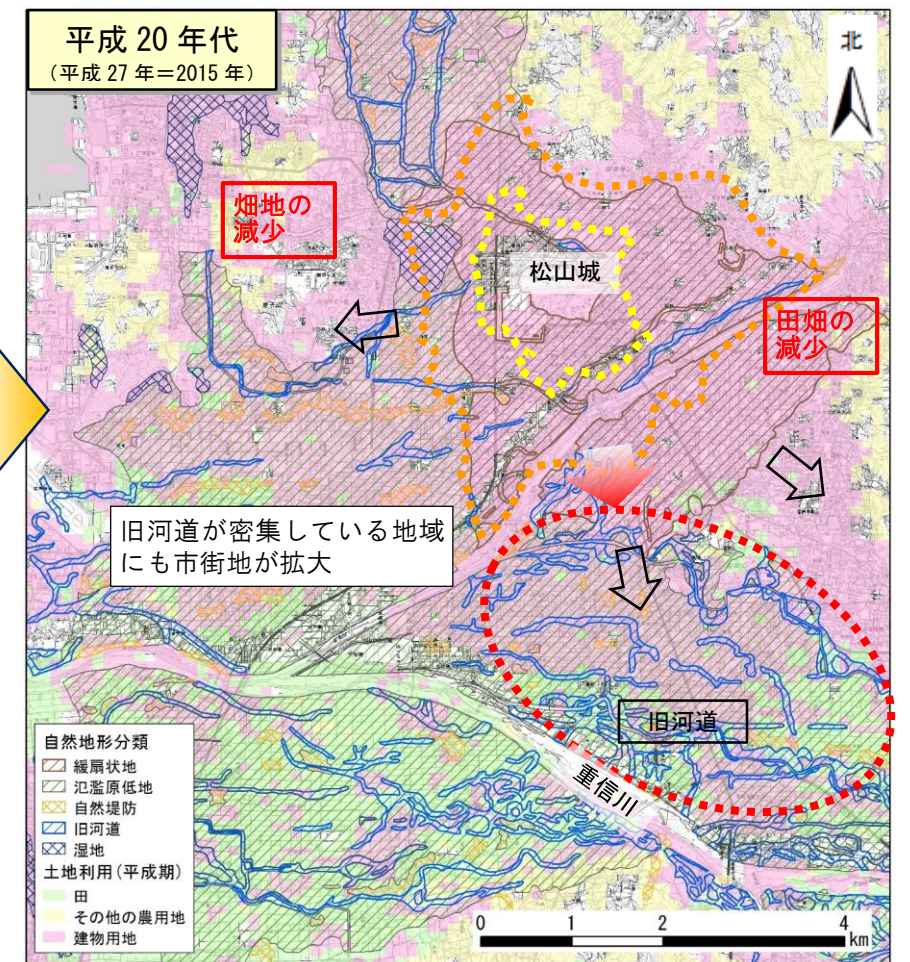
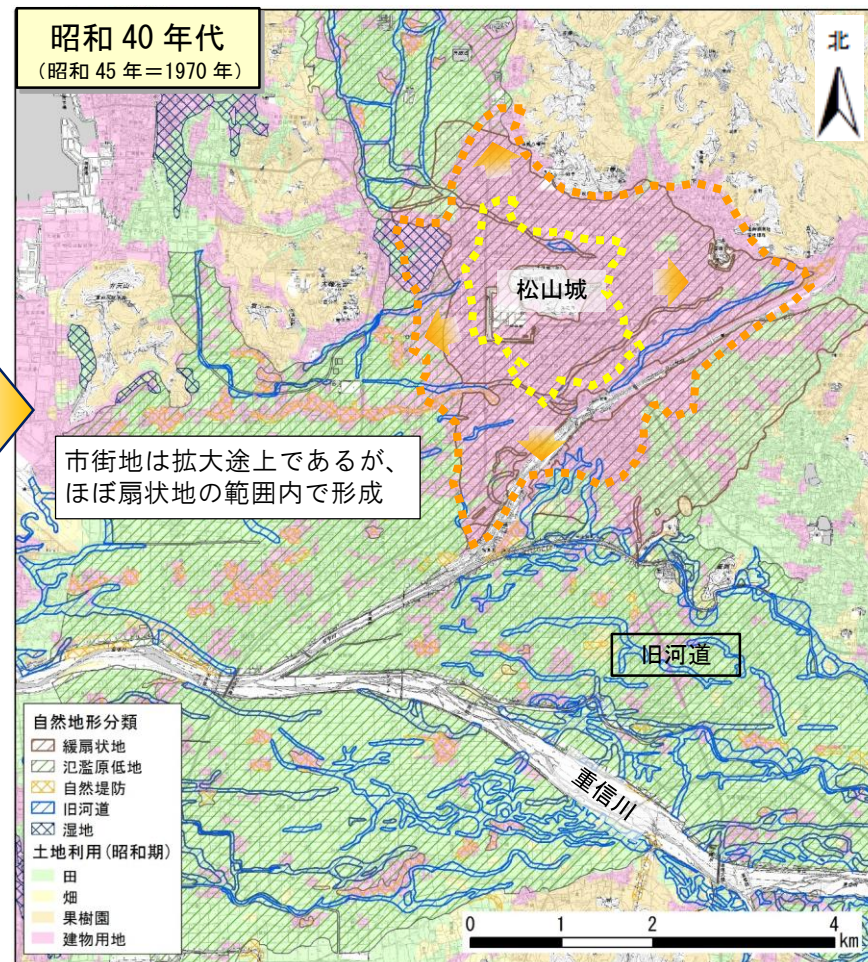
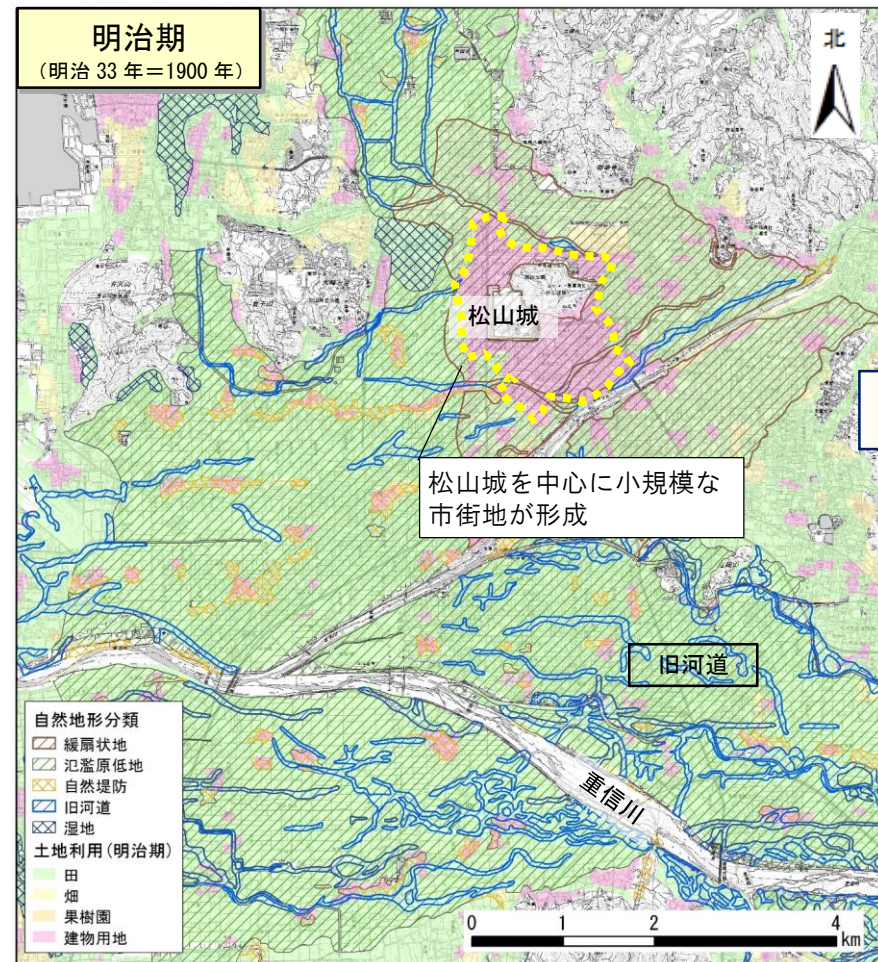
現在はゴルフ場に

注意！必読のこと！ 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用にあたっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

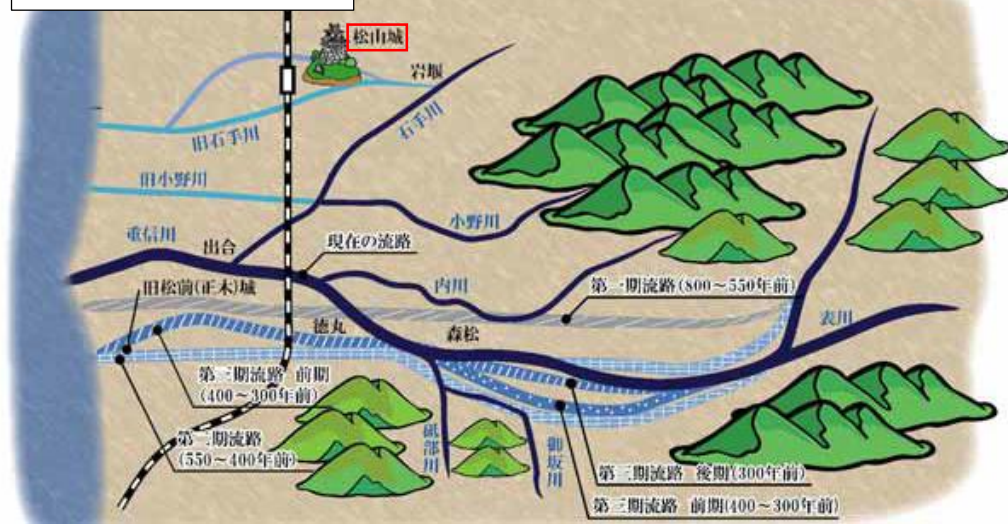
※「明治33年=1900年」、「昭和45年=1970年」の表記は時代の目安であり、使用されている各地図はおおむねその前後の時期のものです
※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平27情複、第666号）
※背景図は電子地形図（タイル）を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順

<松山地区>

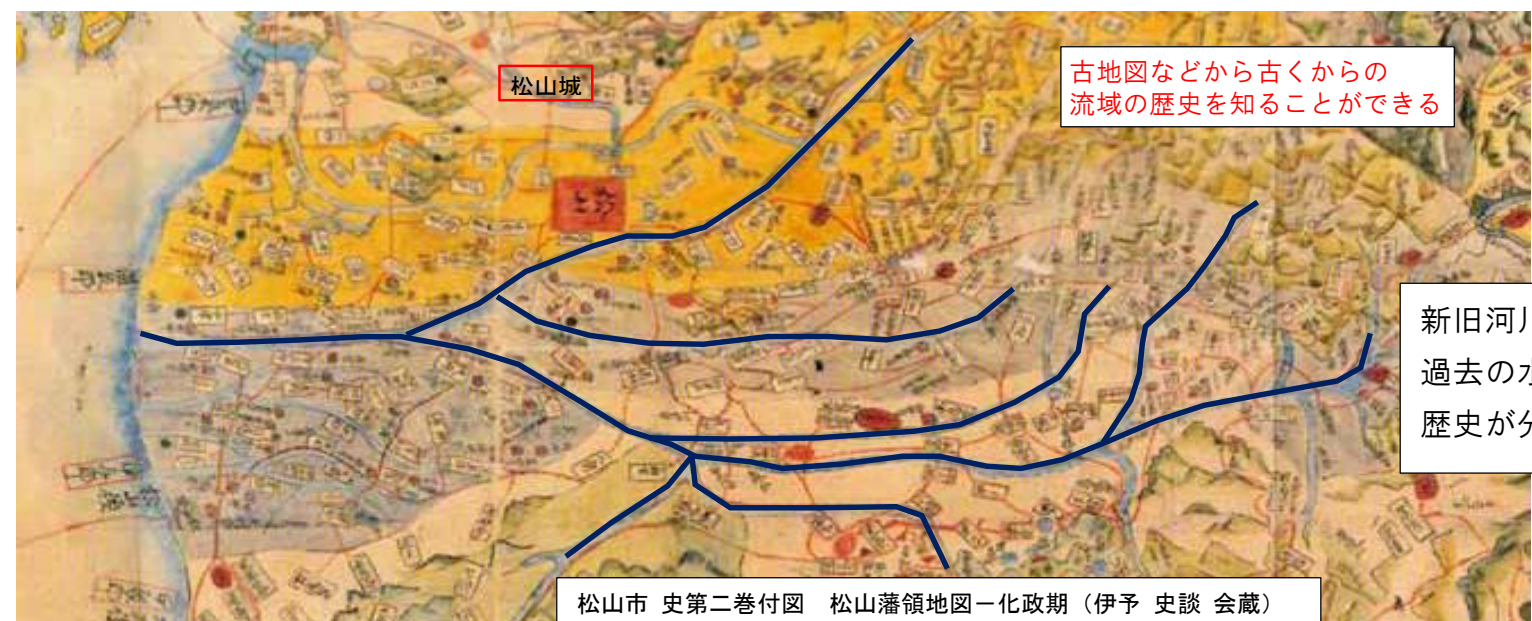
地域の将来を考える資料としても — 過去の地形・土地利用の変遷と街の発展から、これからのふるさとを考えてみよう



流域圏の歴史をたどる



「重信川の歴史」(玉田博一) 昭和20年代前半資料
(「重信川河川整備計画」より引用)



松山市 史第二巻付図 松山藩領地図—化政期(伊予 史談 会蔵)
(「重信川河川整備計画」より引用)

注意 ！必読のこと！ 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

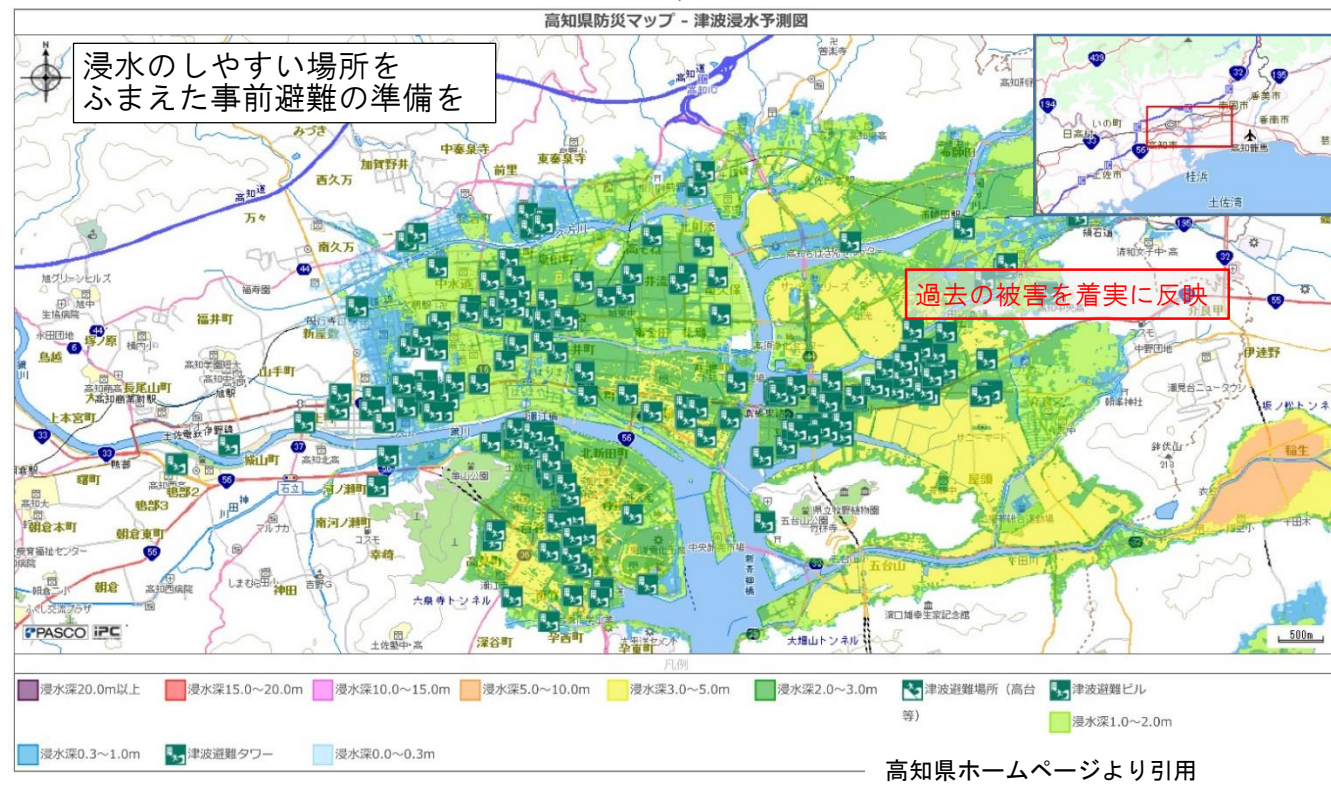
※「明治33年=1900年」、「昭和45年=1970年」の表記は時代の目安であり、使用されている各地図はおおむねその前後の時期のものです

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平27情複、第666号)

※背景図は電子地形図(タイル)を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順

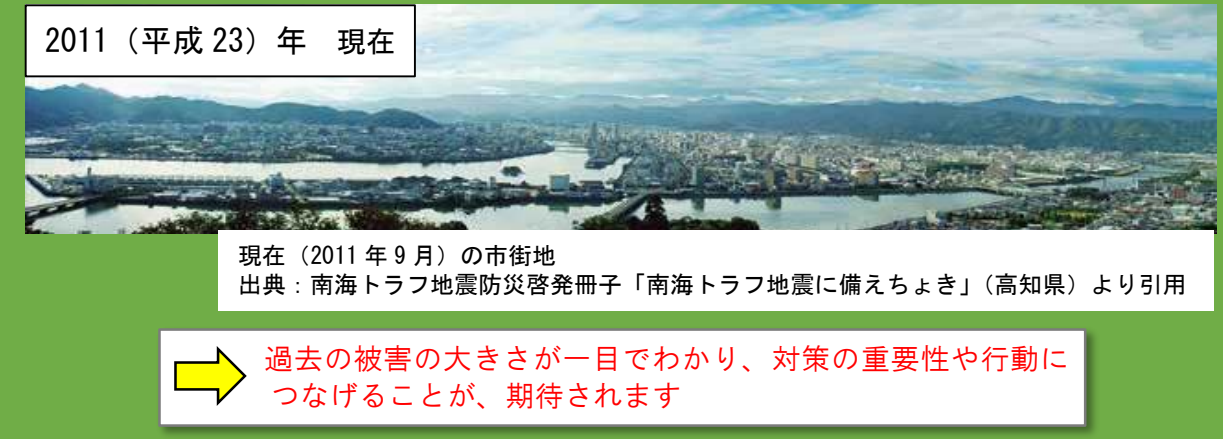
<高知地区>

地域防災計画や避難訓練の参考資料として — 過去の津波被害を教訓に



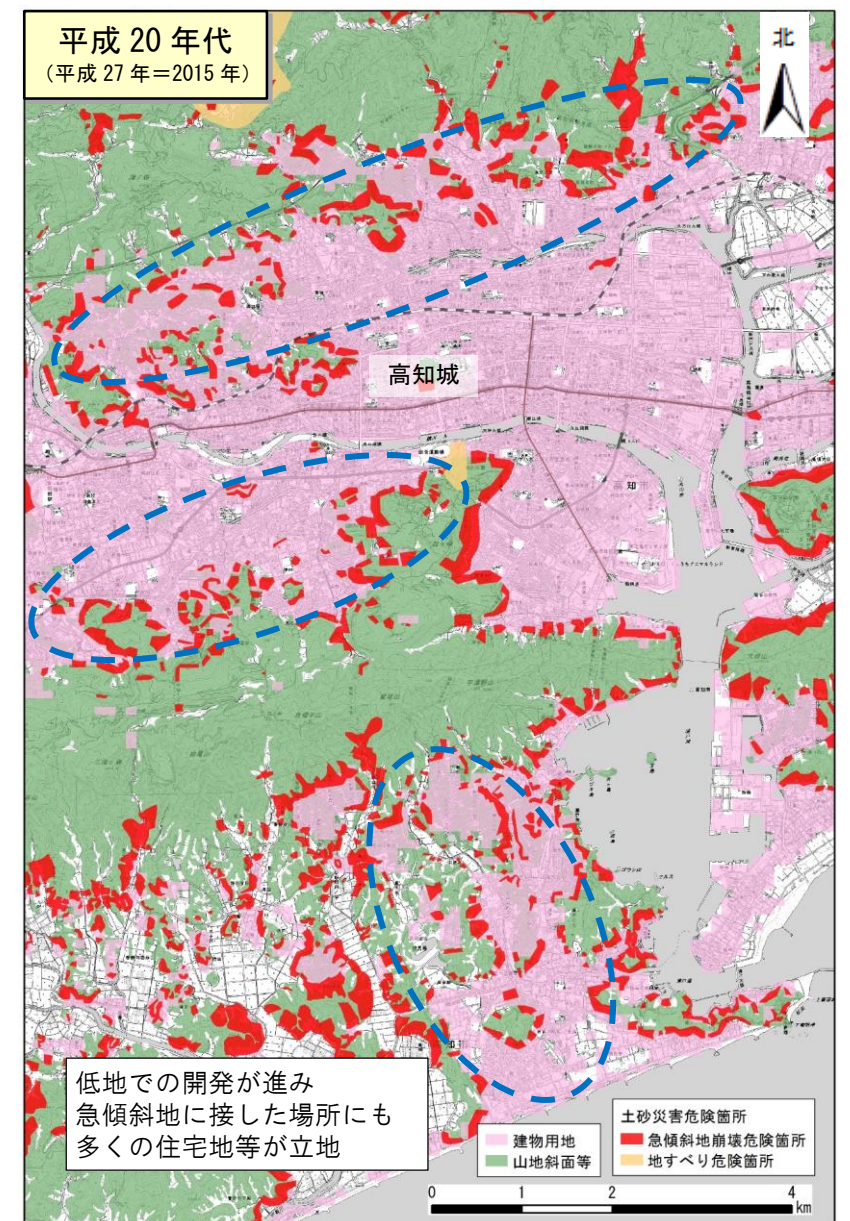
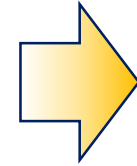
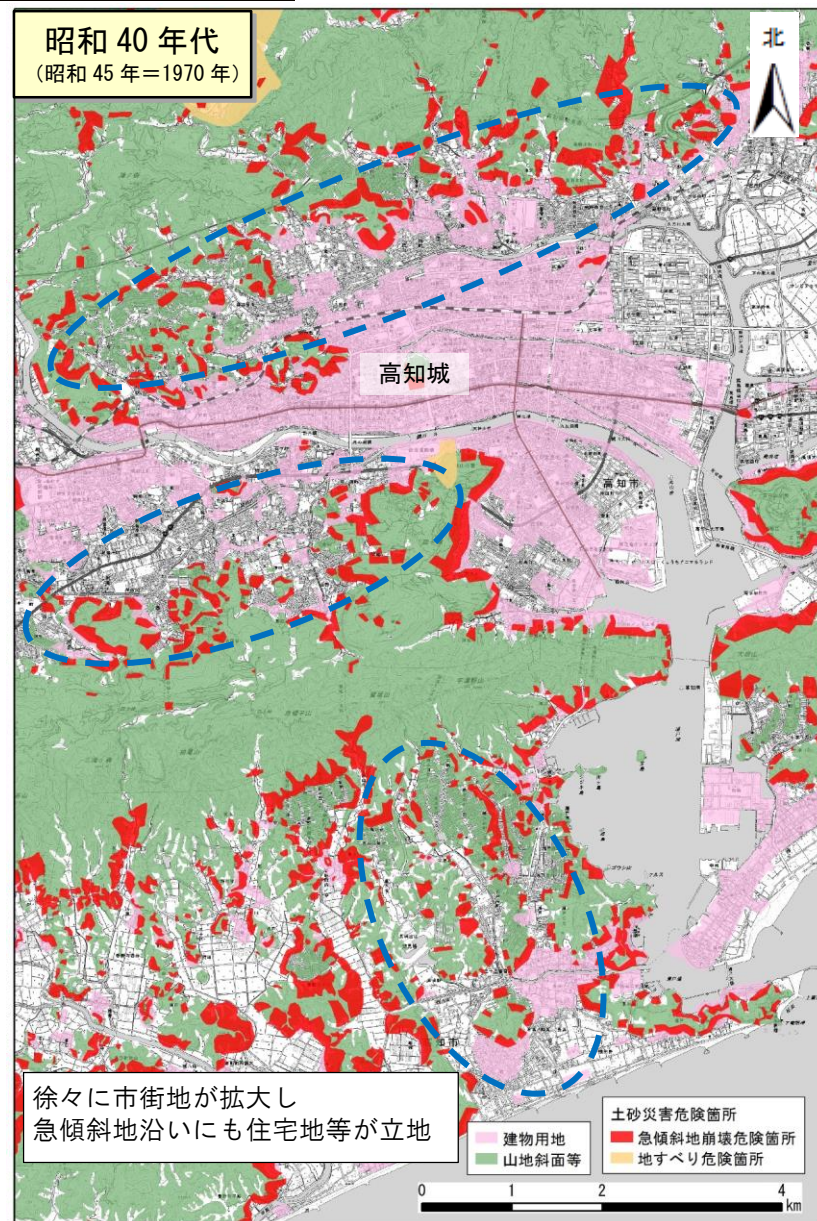
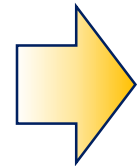
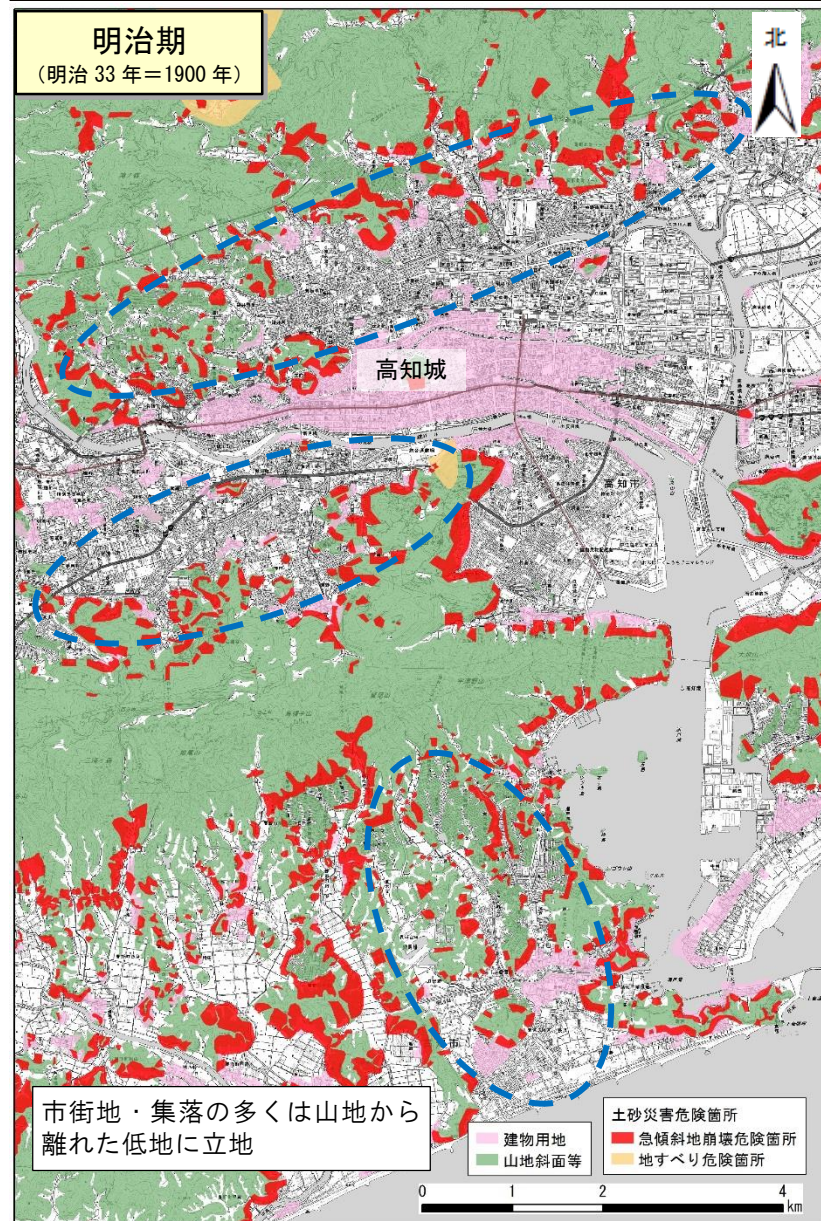
地域防災計画の参考など、住民の自発的避難の参考に

過去の絵図や写真と組み合わせて 津波が達した範囲や高さを写真などで確かめてみよう



13 **注意 ! 必読のこと!** 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。
 ※「明治33年=1900年」、「昭和45年=1970年」の表記は時代の目安であり、使用されている各地図はおおむねその前後の時期のものである。
 ※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平27情複、第666号)
 ※背景図は電子地形図(タイル)を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順

まちづくりの資料として！ 危険な場所を把握して安全なまちをつくる



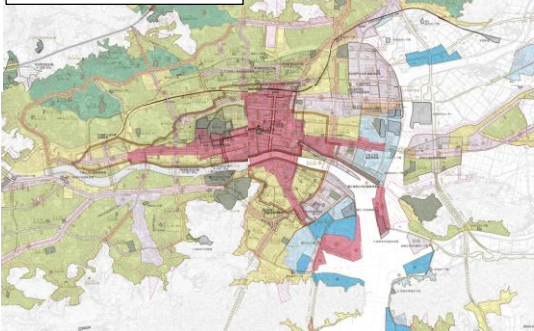
過去の被害事例・地形地質情報の開示



安全・安心な
住まいづくり、
まちづくりに反映



都市計画の参考に



砂防ダム建設の理解



擁壁整備の必要性



地元住民の避難計画づくりにも



住民の住宅選定の参考や災害の懸念がある場所をふまえた、都市計画や防災計画づくりに活用されています

注意 ! 必読のこと! 本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

※「明治 33 年=1900 年」、「昭和 45 年=1970 年」の表記は時代の目安であり、使用されている各地図はおおむねその前後の時期のもので

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平 27 情複、第 666 号）

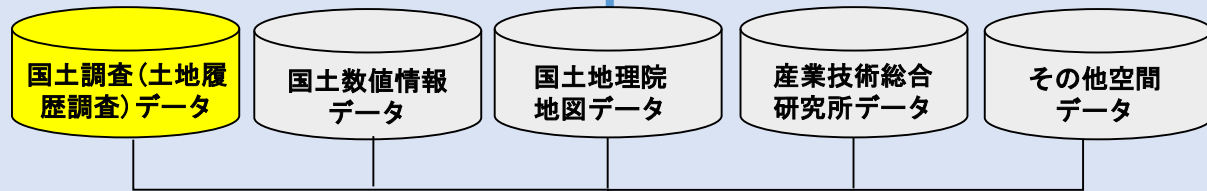
※背景図は電子地形図（タイル）を使用、凡例の解説は最終ページ また、地区は都道府県市町村コード順

では、どうやって活用するのでしょうか — 利活用のロードマップ

利活用先をきめる

- ①都市計画・地域計画
- ②地域防災計画
- ③環境保全
- ④観光情報
- ⑤学習教材
- ⑥地方創生の検討

データの収集



GISによる加工



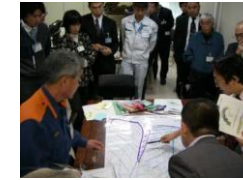
住民の利用シーンとしては

アウトプット例



①都市計画・地域計画への活用

- ・安全な地域への施設の誘導
- ・用途地域変更等の検討資料
- ・重要施設の立地選定
- ・都市計画手続きなどの行政事務の効率化
- など



②地域防災計画・避難訓練への活用

- ・避難行動要支援者の避難計画立案
- ・防災訓練等での図上訓練
- ・地域住民への防災意識向上のための資料
- ・適切な避難所等の選定
- など



③環境や文化財保全への活用

- ・景観保護等の検討資料
- ・アセスメント調査への利活用
- ・モニタリングのデータベース
- など



④観光情報・歴史的資料の発掘

- ・まちづくりへの利活用
- ・景観や風光明媚な場所の発見
- ・観光客への情報発信
- ・観光資源の情報提供
- など



⑤学習教材への活用

- ・ハザードマップ等による防災教育
- ・通学路の危険な地点の周知
- ・地域学習での利活用
- ・避難場所・避難路の確認
- など



⑥地方創生への寄与

- ・地域の特性を生かした産業立地
- ・エリアマーケティングでの活用
- ・福祉施設(バリアフリー等)の位置情報提供
- など



インターネットでデータを入力

- 国土交通省 国土政策局 国土情報課
<http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/download/>
あるいは『土地履歴調査』でネット検索
- 国土地理院(災害関連) <http://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>
- 産業技術総合研究所(地質調査総合センター) <https://www.gsj.jp/> など

⚠ 注意 ! 必読のこと!

本資料中のキャプションは、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用に当たっては、地元の地形・地質や防災等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにしてください。

【凡例の解説】

自然地形分類

	分類	解説
山地斜面	山地斜面等	山地・丘陵地の斜面や台地縁辺の斜面等をいう。海岸の磯や岩礁、離れ岩等を含む。
	火山地斜面等	第四紀火山噴出物からなる火山地または火山丘陵地の斜面等をいう。火砕流や溶岩の堆積地、火山体の開析により形成される火山麓扇状地または泥流堆積地等の火山麓地を含む。
	麓層面及び崖錐	斜面の下方に生じた岩層または風化土からなる堆積地形。
	土石流堆積地	岩塊、泥土等が水を含んで急速に移動、堆積して生じた地形で、溪床または谷の出口にあるもの。
台地	岩石台地	地表の平坦な台状または段丘状の地域で、基盤岩が出ているかまたはきわめて薄い未固結堆積物でおおわれているもの。隆起サンゴ礁台地を含む。
	砂礫台地（更新世※1段丘）	更新世に形成された、地表の平坦な台状または段丘状の地域で、表層が厚く、且つ未固結の砂礫層からなるもの。
	砂礫台地（完新世※2段丘）	完新世に形成された、地表の平坦な台状または段丘状の地域で、形成時期が新しく、未固結の砂礫層からなるもの。
	ローム台地	地表の平坦な台状または段丘状の地域で、表層が厚いローム層（火山灰質粘性土）からなるもの。
低地	扇状地	山麓部にあつて、主として砂や礫からなる扇状の堆積地域。
	緩扇状地	傾斜の緩やかな扇状地。
	谷底低地	山地、丘陵地、台地を刻む河川の堆積作用が及ぶ狭長な平坦地。いわゆる「谷底」。
	氾濫原低地	扇状地と三角州・海岸低地の中間に位置し、河川の堆積作用により形成された広く開けた平坦地で、自然堤防、旧河道または湿地を除く低地。
	自然堤防	河川により運搬されたシルト～中粒砂が、河道及び旧河道沿いに細長く堆積して形成された微高地。
	旧河道	過去の河川流路で、周囲の低地より低い帯状の凹地。
	湿地	自然堤防や、砂州等の後背に位置するため、河川の堆積作用が比較的及ばない沼沢性起源の低湿地。現況の湿地を含む。
	三角州・海岸低地	河口における河川の堆積作用で形成された低平地や、過去の浅海堆積面が海堆により陸化した平坦地。
	砂州・砂堆、礫州・礫堆	現在の海岸及び過去の海岸や湖岸付近にあつて、波浪や沿岸流によってできた砂または礫からなる微高地。
	砂丘	風によって生じた、砂からなる波状の堆積地形。
水部	天井川及び天井川沿いの微高地	堤防設置によって周辺の地形面より高くなった河床及びこれに沿って形成された微高地。
	河原・河川敷	現況の河原及び河川敷（低水敷・高水敷）をいい、堤内地の旧河原・旧河川敷を含む。
	浜	汀線付近の砂や礫で覆われた平坦地（砂浜及び礫浜）をいい、人工改変地内の旧浜を含む。
	現水部	現況が海、または河川、水路、湖沼等の水部。干潟を含む。
副分類	旧水部	過去の海または湖沼等で、現存しないもの。
	崖	長く延びる一連の急傾斜の自然斜面。
副分類	凹地・浅い谷	細流や地下水の働きによって台地または扇状地等の表面に形成された凹地や浅い谷。

※1 更新世：約 258 万 8000 年前から約 1 万 7000 年前までの期間

※2 完新世：約 1 万 7000 年前から現在までの期間

人工地形分類

大分類	小分類	解説
人工平坦化地（切り盛り造成地）	宅地等	山地・丘陵地や台地等の斜面を切土または盛土により造成した平坦地や緩傾斜地のうち、主として住宅や工業団地等の造成によるもの。造成に伴って生じた人工斜面を含む。
	農地等	上記のうち、主に農地整備、ゴルフ場造成等によるもの。造成に伴って生じた人工斜面を含む。
	旧谷線	人工平坦化地内の山地・丘陵地にかつて存在した谷線。
改変工事中の区域		人工的な地形改変が進行している区域及び採石・採土場、採鉱地等及びその跡地。
盛土地		低地等に 0.5m 以上盛土して造成された土地。台地上の凹地・浅い谷部分の盛土地を含む。
埋立地		水部等を埋め立てして造成された土地。
干拓地		水部や干潟、湿地等を堤防で締め切り、排水することによって陸化した低い土地。
切土地		山地・丘陵地や台地等の斜面を人工的に切土して生じた平坦地及び急傾斜の人工斜面。

土地利用分類

分類	解説
田	水稻、い草などを栽培している田。季節により畑作物を栽培するものを含む。
沼田	泥が深く、ひざまでぬかるような田（この分類は明治期だけに適用）。
畑	麦・陸稲・野菜などを栽培する土地をいい、牧草地、芝地を含む。
果樹園	りんご・梨・桃・ブドウなどの果樹を栽培する土地。
樹木畑	桑、茶を栽培している土地。桐・はぜ・こうぞ・しゅろ等を栽培している畑を含む。
森林	高さ 2 m 以上の多年生植物の密生している地域。植林地においては樹高が 2 m 未満であっても森林とする。高さ 2 m 以下の竹、笹の密生している土地。
荒地・海浜等	自然の草地からなる土地及び露岩地、崩壊地、砂礫地などで植物に覆われていない土地。万年雪で覆われた土地を含む。
湿地	干上がった湖沼の跡などの排水の悪い土地で、雨期には水をたたえるところ。
建物用地	住宅や建物類似の構築物、商業・業務・工業・公共・流通・通信・各種の処理施設等に利用されている土地。
交通施設用地	鉄道、道路、空港などに利用されている土地。
その他の用地	空地、公園緑地、墓地、採石地、採鉱地、自衛隊などの特別な用途に利用されている土地。
水部	河川、湖沼、ため池等の内水面および海面や干潟。

災害履歴の主な調査内容

災害種別	主な調査内容
水害	<ul style="list-style-type: none"> 台風、集中豪雨、長雨、融雪等による洪水の浸水範囲 台風、集中豪雨、長雨、融雪等による堤防決壊箇所 高潮、異常潮位による浸水区域 高潮、異常潮位による破堤箇所等
土砂災害	<ul style="list-style-type: none"> 斜面崩壊または崖くずれの発生範囲及び被害区域の分布 地すべりの発生範囲及び被害区域の分布 斜面崩壊等の発生によって生じた堰き止め（河道閉塞による湛水）等の状況と二次災害の発生範囲 土石流等が発生した溪流、土石流堆積物及び被害区域の分布等
地震災害	<ul style="list-style-type: none"> 建築物の倒壊区域の範囲 土木構造物の損壊箇所 液状化による地割れや地盤変位、噴砂・噴泥等の発生範囲 地震に起因する斜面崩壊・地すべり等土砂災害の分布 地震断層の分布 地震に起因する火災等の二次災害分布 津波の遡上範囲及び遡上高等
地盤沈下災害	<ul style="list-style-type: none"> 地盤沈下観測点、累年観測値等
火山災害	<ul style="list-style-type: none"> 降灰・噴石、溶岩流、火砕流、山体崩壊・岩屑なだれ、これらに起因する津波、火山泥流（土石流）等の分布等